

目 次

研修会実施概要	1
研修会日程	4
オンライン研修会受講者名簿	5
オンデマンド配信受講者名簿	6

講義資料

1) 災害時にも誰一人取り残さないために ～近助で支え合う地域防災～	9
2) 防災気象情報を知ろう ー迫り来る危険は何かー	18
3) 避難所運営における男女共同参画の視点	22
4) 防災人材育成モデル地区形成事業について	26

アンケート

研修会アンケート結果	27
------------	----

研修会実施概要

長野県において開催した、令和5年度長野県自主防災組織リーダー研修会の概要について報告します。

1 目的

この研修会は、自主防災組織の指導的立場にある者を対象とし、防災に関する知識、技能を習得させるとともに、その役割についての自覚を高め、地域における自主防災組織の活性化や組織づくりを推進できる人材の養成を図ることを目的とする。

2 主催

長野県／一般財団法人日本防火・防災協会

3 後援

総務省消防庁

4 実施日時

・オンライン（Zoom）によるライブ配信

令和5年12月14日（木）13時30分から15時35分

・YouTube限定公開によるオンデマンド配信

令和5年12月15日（金）から令和6年1月15日（月）

5 参加者

- ・自主防災組織リーダー
- ・自主防災アドバイザー
- ・市町村防災担当者
- ・地域振興局防災担当者 など

6 研修日程

3ページのとおり

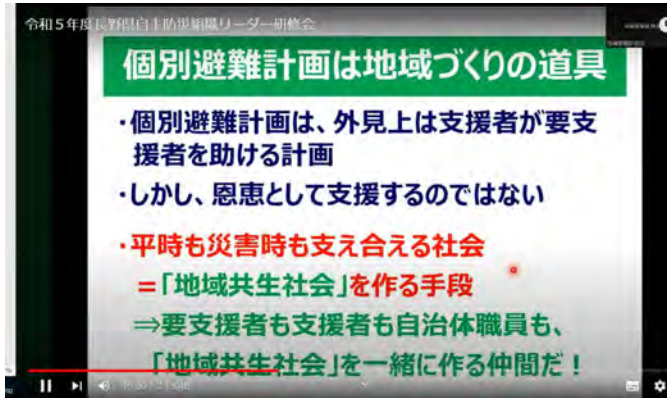
7 研修結果の概要

○災害時にも誰一人取り残さないために ～近助で支え合う地域防災～

高齢化や近所付き合いの形骸化などの社会背景、過去の災害の教訓から見る正常化バイアスや公助の限界などを踏まえ、自助、共助の重要性について講義いただいた。

また、地域住民による個別避難計画策定の具体的な事例を取り上げていただきご説明いただいた。

平時から人間関係、近所関係を良好にし、誰一人取り残さない魅力ある地域社会を構築することが、災害時にも強い地域づくりに繋がる。個別避難計画は、計画を作ることが目的ではなく、地域づくりが目的である。

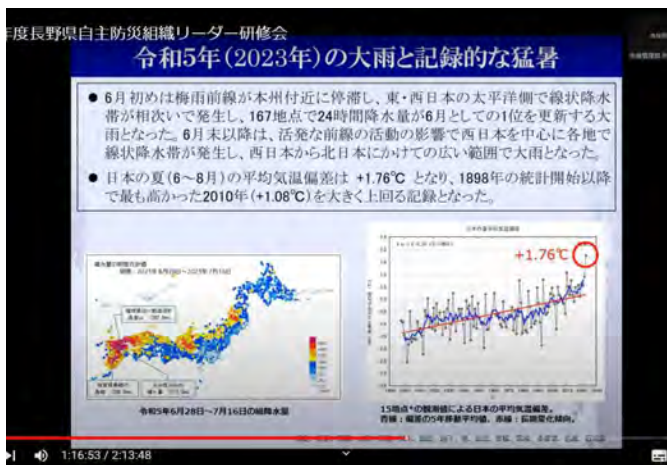


○防災気象情報を知ろう ー 迫り来る危険は何かー

温暖化と気象の激化などについて講義いただいた後、近年の災害の特徴を取り上げていただいた。多くの被害が災害リスクが高いと公表していた地域で発生していることや、在宅高齢者の被災が多かった。

その後、キキクル、特別警報、警戒レベルなど、防災気象情報についてご説明いただき、最新の線状降水帯に関する予測情報についてご説明いただいた。

最後に激化する気象情報から命を守るために、迫り来る危険を正しく理解し、客観的に判断すること。それから、コミュニティ内での助け合いの重要性について講義いただいた。



○避難所運営における男女共同参画の視点

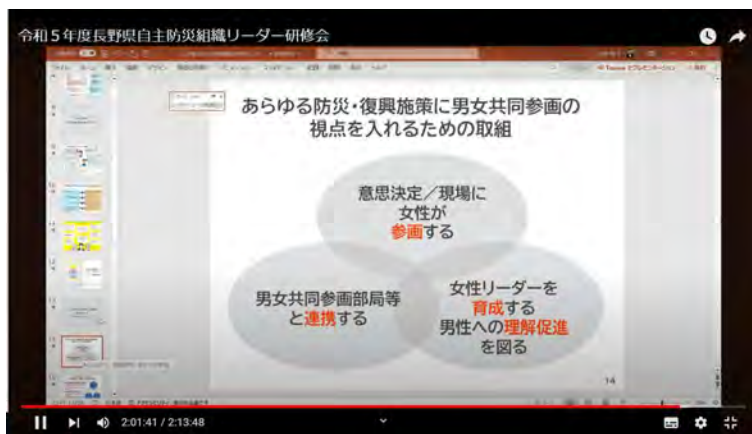
東日本大震災における避難所の実態からみる女性の声がなかなか届かない現実、災害時には平常時における社会問題が顕在化する。

これらの課題解決するため、防災にどのように男女共同参画の視点を入れるの

か、その取組について講義いただいた。

意思決定の場に女性が参画すること、男女共同参画部局と連携すること、女性リーダーを育成し男性への理解促進を図ることの3点を挙げていただき、地域での実践例も交えてご説明いただいた。

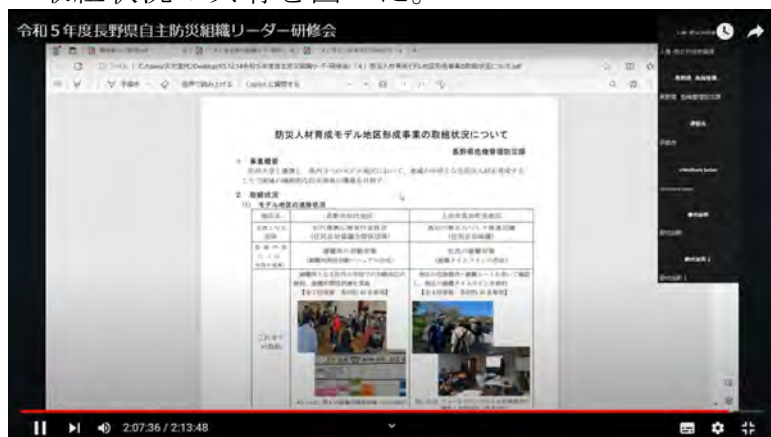
また、内閣府の災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～のチェックリストについてもご説明いただいた。



○防災人材育成モデル地区形成事業について

信州大学と連携して実施している当該事業について、事業概要や取組状況について県担当者より説明を行った。

県内2つのモデル地区で行っている事業の様子を、写真も投影しながら説明し、取組状況の共有を図った。



「令和5年度長野県自主防災組織リーダー研修会」 日程

時 間	内 容	講 師 等	参 加 者		
			自主防災 組織リーダー	自主防災 アドバイザー	市町村等 担当者
12:30～13:30	接続テスト				
13:30～13:35 (5分)	研修会開始 主催者説明	長野県危機管理部危機管理防災課			
13:35～14:35 (60分)	災害時にも誰一人取り残さないために ～近助で支え合う地域防災～	跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部 教授 内閣府:個別避難計画モデル事業アドバイザーボード座長 鍵屋 一 様			
14:35～15:05 (30分)	防災気象情報を知ろう ー迫り来る危険は何かー	長野県防災総合アドバイザー 元 気象庁長官 西出 則武 様	○	○	○
15:05～15:30 (25分)	避難所運営における男女共同参画の視点	長野県社会福祉協議会 まちづくりボランティアセンター 元持 幸子 様			
15:30～15:35 (5分)	防災人材育成モデル地区形成事業について	長野県危機管理部危機管理防災課			
15:35	研修会終了				

災害時に「も」誰一人 取り残さないために ～近助で支え合う地域防災～

令和5年度長野県自主防災組織リーダー研修会

主催:長野県/一般財団法人日本防火・防災協会 後援:総務省消防庁

令和5年12月14日(木)
跡見学園女子大学観光コミュニティ学部
(一社)福祉防災コミュニティ協会代表理事
鍵屋 一

ナマハゲは（災害）ボランティア！

- 平時は五穀豊穡、家内安全を祈る来訪神
- 災害時は、**要配慮者情報（ナマハゲ台帳）**に基づいて避難支援

- 避難場所（神社）を日頃から使う
- 避難場所までの参道を整備
- 確実な避難方法（同行避難）

祝！男鹿のナマハゲら来訪神
ユネスコ 無形文化遺産！ 2018年11月29日



個別避難計画は現代のナマハゲ台帳

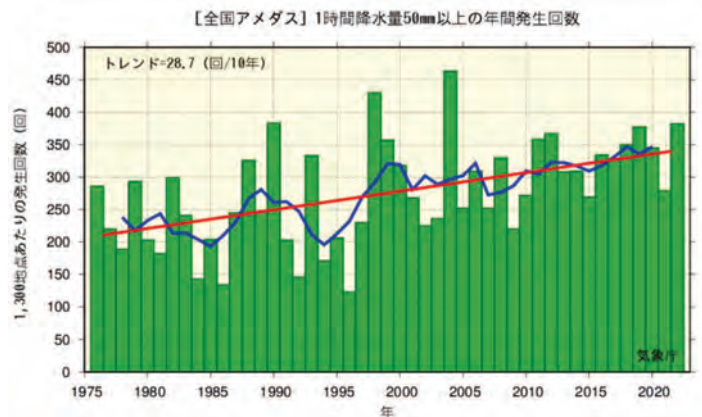
- 平時はコミュニティと福祉専門職による支援
- 災害時は、個別避難計画（ナマハゲ台帳）に基づいて避難支援

- 避難場所（福祉施設、公民館等）を決定
- 避難場所までの安全な避難路を確認
- 確実な避難方法（車や徒歩で同行避難）

災害被害の方程式

自然の外力
×人口(被害を受ける範囲)
×**社会の脆弱性**

降水量は増えている



○なぜ、人は逃げ遅れるのか？

○なぜ、行政、福祉、企業等の災害対策の優先順位は低いのか？

水害・土砂災害の防災情報の伝え方が変わります

防災情報はいろいろあるけどいつ避難すればいいの？

警戒レベル4で全員避難!!

【警戒レベル】は避難のタイミングをお知らせします。

警戒レベル1	警戒レベル2	警戒レベル3	警戒レベル4
心構えを高める	避難行動の確認	避難に時間を要する人は避難	全員避難
避難行動の確認	避難に時間を要する人は避難	安全な場所へ避難	

次のような内容で自治体から避難行動を呼びかけます！

正常化の偏見

「自分は大丈夫！」

・自分にとって都合の悪い情報を無視したり、過小評価してしまう人間の特性

ex) 逃げない非常ベル

・初着のリスク情報の無視

大地震発生直後、あなたは家族と家にいました。何をしますか？

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.

災害被害の方程式

自然の外力×人口(暴露量)
×社会的脆弱性

今年は関東大震災100年

1923年の平均寿命

男41歳、女43歳

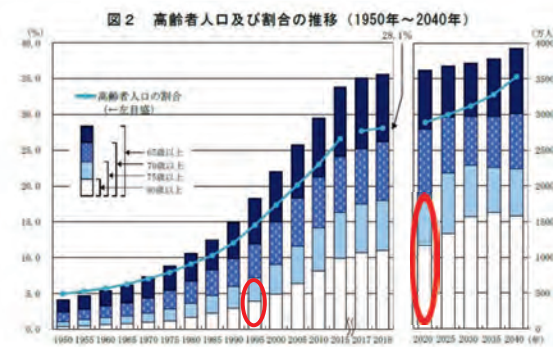


2023年の平均寿命

男81歳、女87歳

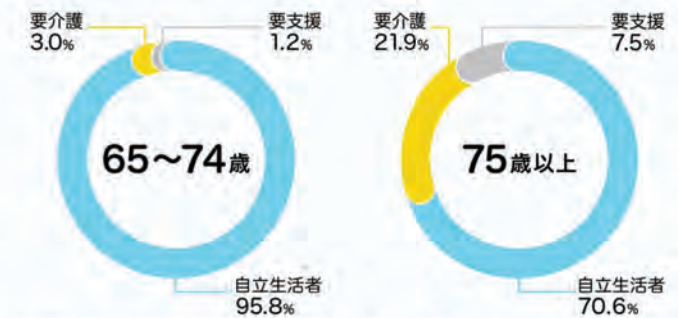
進み続ける高齢化 (出典：統計局HP)

75歳以上は25年で2.6倍！



資料：1950年～2015年は「国勢調査」、2017年及び2018年は「人口推計」
2020年以降は「日本の将来推計人口（平成29年推計）」出生（中位）死亡（中位）推計
(国立社会保障・人口問題研究所) から作成

※1：要介護認定者の実態



※厚生労働省「介護保険事業状況報告（年報）」/2009（平成21）年度

要介護者の日常生活動作

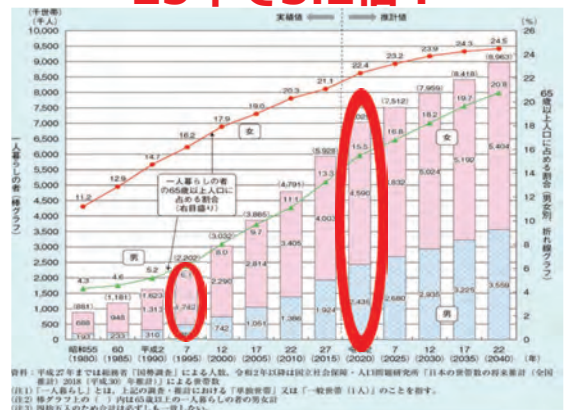
- 自分で入浴できない ⇒72.1%
- 50m以上歩けない ⇒69.2%
- 階段を昇り降りできない ⇒80.2%
- 大便の失敗がある ⇒59.9%
- 小便の失敗がある ⇒69.8%

出典：日常生活圏域二一調査モデル事業・結果報告書平成22年（2010）10月厚生労働省老健局

激増する高齢単身世帯！

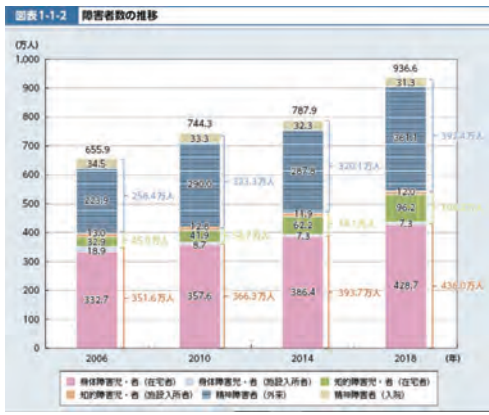
出典：令和元高齢者白書

25年で3.2倍！



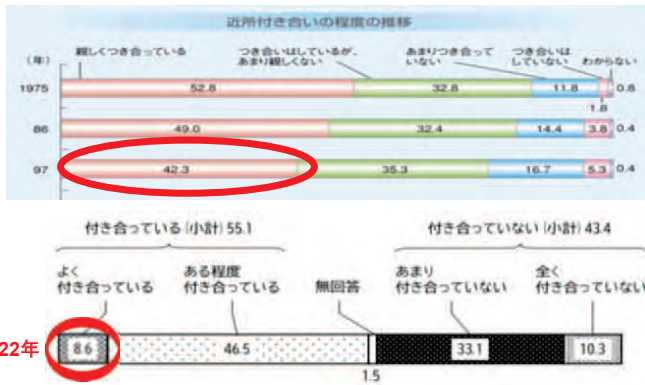
障がい者は25年で約62.5%増

(下図は12年で43%増) 出典：厚生労働省HP



近所づきあいは減っている！

出典：平成19年版国民生活白書、令和4年12月社会意識に関する世論調査



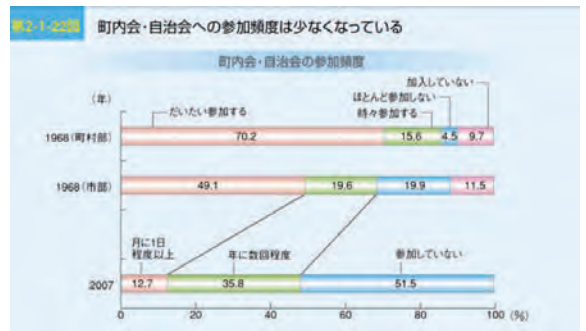
特定医療費（指定難病） 受給者証所持者数の変化 25年間で3.24倍！

1995年3月 291,856人
2020年3月 946,110人

出典：難病情報センターHP

町内会自治会活動への参加も低下！

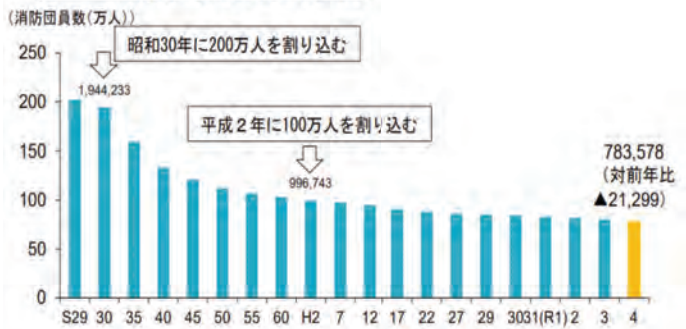
出典：平成19年版国民生活白書



減り続ける消防団員数！

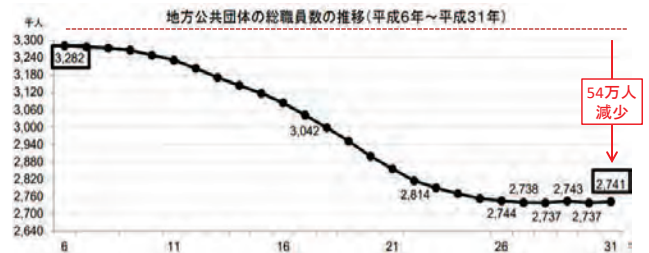
出典：総務省消防庁HP

1 消防団員数の推移



公助にも限界が... 自治体職員は25年で16.5%減！

出典：総務省HP



2011年3月11日 東日本大震災
死者：19,684名 計：22,207名(以上)
行方不明：2,523名 (警察庁:2022.3)
避難者数:38,139名 (復興庁2022.2.8) 震災関連死:3,784名:復興庁2021.9.30



誰が逃げろと伝えたか？

- 第1位 101人 家族・同居者
 - 第2位 97人 近所、友人
 - 第3位 74人 福祉関係者
 - 第4位 30人 警察・消防(団を含む)
- 内閣府「避難に関する総合的対策の推進に関する実態調査結果報告書」(東日本大震災時、315人、複数回答あり)2013年

誰が逃げるのを支援したか？

- ・第1位 85人 家族・同居者
- ・第2位 60人 近所、友人
- ・第3位 53人 福祉関係者
- ・第4位 11人 消防・消防団

内閣府「避難に関する総合的対策の推進に関する実態調査結果報告書」(東日本大震災時、179人、複数回答あり)2013年

⇒近所・友人と福祉関係者の支援力が強い！

あと少しの支援があれば・・・

- 在宅の障がい児者を高齢者が世話をしている家庭も多かった。残念なことに、高齢者の判断が遅れ、ともに逃げ遅れた事例がいくつもあった。
- 自閉症の子どもがいることを近所の方が前から知っていたので、支援に駆け付け、一緒に避難して助かった
- 多くの被災地を回った経験からは、残念なことに障がい者にとって地域の助け合いは重要だが、必ずしもうまく行われていないと思う

中村雅彦「あと少しの支援があれば 東日本大震災障がい者の被災と避難の記録」、ジアース教育新社、2012年2月

東日本大震災 死者の教訓 (1)

- 高齢者が約6割
- 障がい者死亡率は約2倍

⇒高齢者や障がい者の避難にフォーカスした対策が必要
※地区防災計画や個別避難計画で、高齢者や障がい者を近所や福祉とつなげる！

東日本大震災 死者の教訓 (2)

- 支援者も多数亡くなった
 - ・自治体職員288名(地方公務員災害補償基金2019年2月)
 - ・消防団員254名(H24.12.消防庁)・民生委員56名
- ・高齡福祉施設職員173名
(厚労省保健局:H24年6月)

※福祉施設や病院は利用者を置いて逃げることはできない。
⇒安全な場所に立地する必要

東日本大震災 死者の教訓 (3)

- 震災関連死が3,784名にも上った
 - ・89%が66歳以上、移動や避難所で衰弱
 - ⇒高齢者、障がい者を支援する制度、避難拠点が必要
 - ※福祉施設BCP作成の義務化、福祉避難所を多数整備する

個別避難計画とは？

- ・いつ⇒高齢者等避難(警戒レベル3)
- ・どこに⇒避難場所、知人、ホテル・旅館、福祉避難所
- ・誰と⇒主に家族、近所の人
- ・どうやって⇒車、徒歩

優先度の高い人とは

- ①ハザードマップのレッドゾーン
 - ②本人の要支援度が高い
 - ③支援者の支援度が低い
- 支援者のいない人が厳しい。だが行政にはわからない・・・
→福祉専門職や地域住民等の情報が不可欠

避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針

平成25年8月(令和3年5月改定)内閣府(防災担当)

- 令和3年の改正災対法においては、個別避難計画の作成について市町村の努力義務という形で規定された。
⇒要支援者だけでなく支援者の命も守る
- 優先度が高いと市町村が判断した者について、地域の実情を踏まえながら、改正法施行後から概ね5年程度で取り組んでいただきたい。

避難の支援者がいない

- ・高齢化などで支援者がいない
- ・支援者には負担感が強い……

1. 支援者の役割を限定する

⇒避難連絡だけでよい

2. 要支援者1名に複数の支援者が連絡する

3. 避難誘導の支援者は組織でよい

⇒自主防災会、町内会・自治会、消防団、福祉事業者 (仮置きでよい)

地域住民による個別避難計画

1. 洪水、土砂災害等のハザードを理解し、自分と家族の身を守る
2. 安全を確保したら、「事前に決めた高齢者、障がい者等(要支援者)」の安否確認

※この仕組みを作ることが最重要！

⇒避難誘導は、消防団や自治会と協力

3. 自治会長等に報告する。

4. 高齢者や障がい者等も、避難支援者等に避難の有無を伝える。

わが家は大丈夫 富士宮市



【訓練】百考は一行に如かず「漢書」趙充国伝

震災前に津波避難訓練に参加経験が「ある者」は「ない者」に比べて、避難したオッズ比が 1.99 倍高く、津波浸水域内にいた場合はさらにオッズ比が 3.46 倍高い。

一方で、地震避難訓練、地震や津波に関する防災の講義への参加、地震・津波に関する話を聞いた経験は避難行動に統計学的に有意な影響を与えていない。

(中谷直樹「津波避難訓練が避難行動に与える効果」埼玉県立大学地域産学連携センター2019年度WEB講座)

95歳の夫と86歳の妻の避難



2022年10月29日 酒田市総合防災訓練

ちょっとした階段が大変！



2022年10月29日 酒田市総合防災訓練

ひなんさんぽ 岡崎市



訓練が終わったら、振り返り

訓練結果を**当事者、保護者**
地域住民・民生委員と福祉や医療関係者、自治体職員が振り返りをして、**個別避難計画の作成へ！**

※美味しい和菓子も(^_-)-☆
⇒**当事者、地域、福祉がつながる**

個別避難計画は地域づくりの道具

- ・個別避難計画は、外見上は支援者が要支援者を助ける計画
- ・しかし、恩恵として支援するのではない
- ・**平時も災害時も支え合える社会**
 =「**地域共生社会**」を作る手段
 ⇒要支援者も支援者も自治体職員も、
 「**地域共生社会**」を一緒に作る仲間だ！

福祉、防災、コミュニティの連携で「強み」を生かし「弱み」を補完する避難支援体制⇒日常も災害時も支え合える「**地域共生社会**」



2016年4月14日、16日熊本地震 最大震度7
 益城町建物被害 全半壊6,259棟、一部損壊4,325棟、無被害156棟
死者:273名 (災害関連死:223名) (熊本県.2023.4.13)
 最大避難者：183,882名



多数の車中泊 保健福祉センター
 H28:4:20 跡見学園女子大学 鍵屋撮影

4
5

高齢者を支える福祉避難スペース



写真：熊本地震時の避難所となった福祉施設
 熊本県益城町特別養護老人ホーム いこいの里提供

熊本地震震災関連死 死亡時の生活環境区分

出典：熊本地震の発災4か月以降の復旧・復興の取り組みに関する検証報告書、R3.4.9報道発表

生活環境	人数	割合
発災時にいた場所及びその周辺	12	5.5%
避難所等への移動中	0	0.0%
避難所滞在中	10	4.6%
仮設住宅滞在中	1	0.5%
民間賃貸住宅・公営住宅等滞在中	0	0.0%
親戚や知人の家に滞在中	8	3.7%
発災前と同じ居場所に滞在中の場合【自宅等】	81	37.2%
発災前と同じ居場所に滞在中の場合【病院】	27	12.4%
発災前と同じ居場所に滞在中の場合【介護施設】	17	7.8%
入院又は入所後 1か月以上経過しなくなった場合【病院】	58	26.6%
入院又は入所後 1か月以上経過しなくなった場合【介護施設等】	3	1.4%
その他・不明	1	0.5%
合計	218	

在宅の被災者支援が重要！

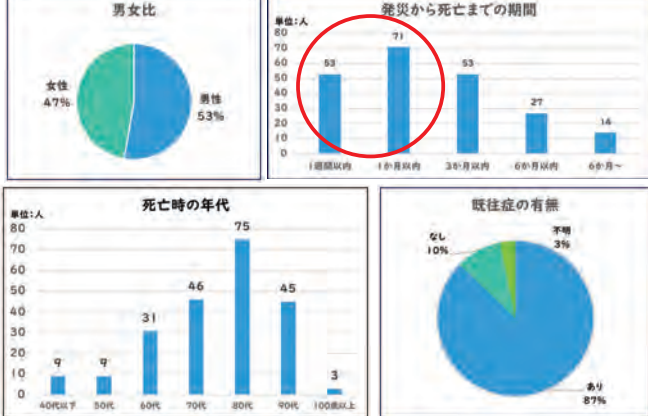
在宅の高齢者・障がい者等の早急な見守り、保健・医療・福祉・生活支援が重要

(自治会等の見守り支援、在宅介護支援のBCP、社協の支え合いセンター、保健医療福祉調整本部など)

※避難行動要支援者名簿を活用！
 ⇒体調が悪ければ
 すぐに病院、福祉避難所へ！

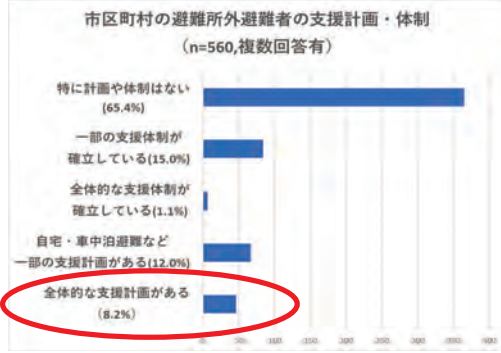
熊本地震での震災関連死内訳令和3年3月末時点218件 (更新)

出典：熊本地震の発災4か月以降の復旧・復興の取り組みに関する検証報告書、R3.4.9報道発表



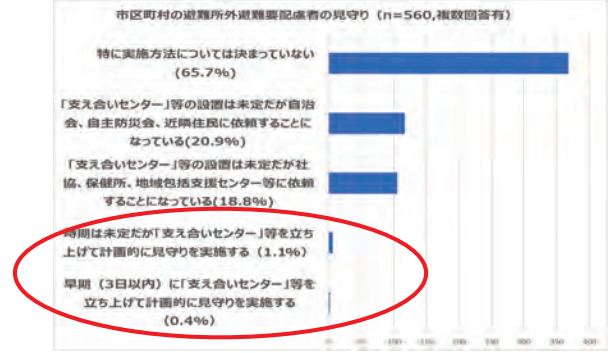
避難所外避難者の支援計画・体制

出典：避難所外避難者の支援体制に関する調査研究
2022年 3月 一般財団法人 日本防火・危機管理促進協会



避難所外避難要配慮者の見守り

出典：避難所外避難者の支援体制に関する調査研究
2022年 3月 一般財団法人 日本防火・危機管理促進協会

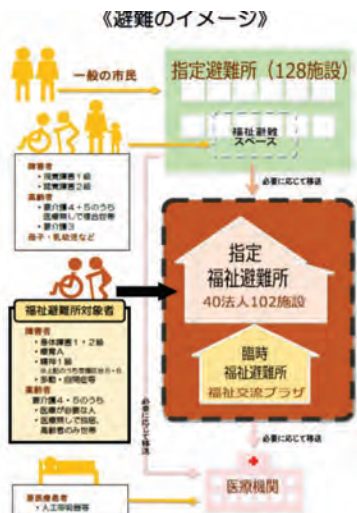


福祉避難所の問題

- 福祉避難所は**二次避難所**なので、災害発生して数日後に開設するものである
- ⇒一般の避難所に行けない人(認知症高齢者、知的・精神障がい児者、乳幼児等)はどうすれば？
- 避難所において、具合が悪くなった人を移送するものである
- ⇒そもそも避難所で具合を悪くしてはいけない。移送は多大な調整、労力、時間を要するのがわからない？

福祉避難所の新たな方向性

- (高齢者等の避難支援に関するサブワーキンググループ報告書 (2020.12.24))
- 高齢者・障害児者等の個別避難計画で、福祉避難所施設との**事前マッチング**を行う。
 - 福祉避難所は**マッチングのできた者について、直接避難を受入れる**とともに避難生活の場とする。
 - 福祉避難所の負担軽減のため、**受入れ者を限定した公示**を行う。(例)〇〇特別養護老人ホーム(高齢者限定)、〇〇特別支援学校(障害児限定)



(新) 福祉避難所ガイドライン (2021年5月)

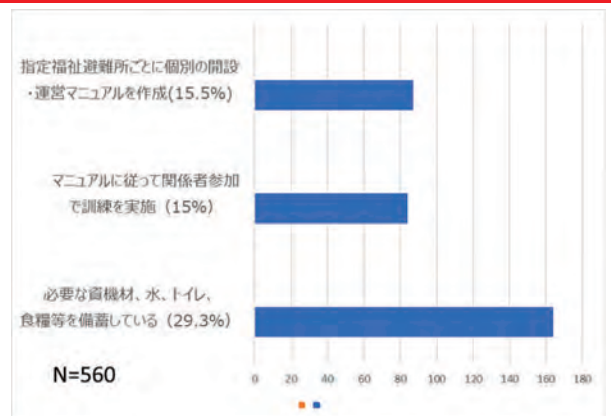
- 市町村は、災害が発生し又は発生のおそれがある場合(災害時)で、高齢者等避難が発令された場合などには、指定福祉避難所を開設する。
- 【4月25日、熊本県球磨村】
- 14:30 タイムライン運用会議
- 16:30 警戒本部対策会議
- 17:30 レベル「3」高齢者等避難発令
- ※指定緊急避難場所4か所、指定避難所1か所及び**福祉避難所1か所を開設**

新潟県上越市の事例

- 高齢者等の避難支援に関するサブワーキンググループ報告書 (2020.12.24)
- あらかじめ市の聞き取り調査を終えて、避難する福祉避難所が指定されている人は、自宅から**直接避難**
 - 福祉避難所が指定されていない人は、まずは近くの**指定避難所内の福祉避難スペース**を利用

指定福祉避難所のマニュアル・訓練・備蓄状況

出典：「避難所外避難者の支援体制に関する調査研究」
2022年 3月 一般財団法人 日本防火・危機管理促進協会



福祉避難所には、電気、トイレ、マニュアル・訓練が必要！

子ども福祉避難所開設BOX・運営マニュアル

短時間で子ども福祉避難所を開設・運営するノウハウが詰まっています

責任者がいなくても避難所の開設・運営をスムーズに行うための「指示書」「コミュニケーションボード」などが含まれています。平常時にはこのマニュアルを使用して訓練し振り返り研修を行います。

子ども福祉避難所開設指示書

- 運営マニュアル（印刷・この冊子で印刷）
- ネットの使用方法及び説明書・指示書
- 避難所運営ツールキット
- ホワイトボードシート
- 模造紙・筆記具…など

外部給電器

子ども福祉避難所で重要となる冷暖房機の稼働、精密機器に適した国内最大パワーの給電器

発出時の避難所でブラックアウトに備えるための給電器。精密機器に適した、交流電圧の乱れが少ない「きれいな電気」を供給します。他の地域から電気自動車やPHEVでかけつけ、給電による支援を行うことも可能です。

HONDA Power Exporter 9000

※詳細はHPをご覧ください

バリアフリーで移動式トイレ

避難所のトイレ問題を改善する自動ラップ式トイレ

仮設トイレの設置を待たずに即稼働できるポータブルトイレ。自動ラップ式なので避難所を清潔に保つことが可能です。

感染症対策を含む防災グッズ

感染症対策を含む様々な防災グッズも併せて整備します

設備・物資は各学校の機能性に合わせ、分散して備蓄を行います。各特別支援学校の在校生だけでなく、卒業した障がい児者も、慣れ親しんだ支援学校が避難所となることで、早めの避難行動の促進も期待できます。

福祉避難所の充実に向けて
(一社)福祉防災コミュニティ協会

- 2022年度、消防防災科学センターの委託により7県で福祉避難所マニュアル作成研修を実施
- 実践的な福祉避難所開設・運営マニュアルをHPで無償公開
- 企業版ふるさと納税で福祉避難所訓練を数自治体で実施

福祉避難所マニュアル（受付の抜粋）

(4)受付開始

受付は、避難者と福祉施設職員の初めての出会いの場です。避難者は大きな不安を抱えながら来ていますので、落ち着いて対応することが大切です。

□ 一般避難者には原則として小中学校などの避難所に行くように要請します。（一時的な滞在を許可する場合もあります。）

□ 避難者カード【3. 2. (2)避難者カード】による受付を行います。

□ 多数の避難者がいるときや受付スタッフが少ないときは、名前を聞き取って吊り下げ名札にカタカナで名前を書いて、首にかけてもらいます。

※ 避難者に「避難者カード」を記載してもらいますが、難しい場合は施設職員が聞き取りをしながら記入します。

※ 名簿作成時には、特別な食事への配慮（アレルギーがある、乳幼児でミルクや離乳食が必要など）、医療的な配慮・介助が必要か否か、持病、障がい、どんな薬を飲んでいるか可能な限り申告してもらいます。

※ 避難者の安否照会、食料や物資の数量は、避難者名簿の避難者数をもとに行うので、非常に重要です。

※ 福祉避難所の専有面積は、一坪（3.3㎡）あたり1名のため、「毛布の幅」を目安に1名の占有場所とします。家族等同行者用スペースにも配慮します。なお、コロナ禍等感染症流行期においては4㎡以上を目安とします。

避難者カード		福祉避難所名	
フリガナ		介護の必要	有・無 (詳細は、備考欄にお書きください。)
氏名			
性別	男・女	年齢	
住所			
家族等の連絡先	氏名 電話番号	住所	
備考	※配慮が必要な場合、体調不良の場合、病院の薬を服薬中の場合等は具体的に記入してください。 ※その他		

孤独なボウリング
R・パットナム（米国政治学会元会長）

ボウリングする人の数は減っていないが、みんなでする人は減り、一人が増えた！

◎アメリカの組織社会への参加率

以前のアメリカは市民の「つながり」が強かった。そのつながりが幸福な暮らしと民主主義を支えてきた。

1960年頃は30% ⇒ 2000年頃は10%
⇒治安が悪化し、格差が大きくなり、社会の効率が悪くなった

決め手は「ご近所力」②

- ◎ご近所が要支援者の主体性、生きがいを引き出す
- ・津波が来たら死んでやると言っていたが、近所に声かけられて悪い足を引きづって訓練に参加する黒潮町の高齢者
- ・福祉避難所訓練に来てと頼まれて、仲間を数十人連れて参加した永平寺町の車いすユーザー（NPO代表）
- ・個別避難計画訓練に参加を頼まれて、杖をついて避難した岡山市の高齢者

決め手は「ご近所力」①

◎社会関係資本 Social Capital
人や地域のつながり=信頼の絆=ご近所力

社会関係資本は、人々を賢く、健康で、安全で、豊かにし、公正で安定した民主主義を可能とする。

- ※「ご近所力」は付加的価値ではない
- ※「ご近所力」こそが、安心安全の源泉

人生を幸せにするのは何？

- ・75年間724人の男性を追跡し 休むことなく 仕事や家庭生活 健康などを記録
- ・1番目のグループはハーバード大学の2年生
- ・2番目のグループは極貧環境で育った少年達

人を健康で幸福にするのは
良い○○○○に尽きる

これからの防災は？

損失を減らす防災から、

「価値向上型」の防災へ

日常から人間関係、近所関係を良好にし、
誰一人取り残さない魅力ある地域社会＝
地域共生社会を作る

⇒災害や危機に「も」強くなる！



価値向上型防災の概念



◎価値向上への継続的取り組み

◎質の低下を最小に、早期に復旧復興を進める

⇒両方を実現する防災・BCへの取り組み

今日を愛し、明日に備える

**Fight 闘う君の唄を闘わない奴
等が笑うだろう**
**Fight 冷たい水の中をふるえなが
ら上っていけ**
**中島みゆき「ファイト！」から
ご清聴ありがとうございました！**

防災気象情報を知ろう

- 迫り来る危険は何か -

西出 則武
長野県防災総合アドバイザー

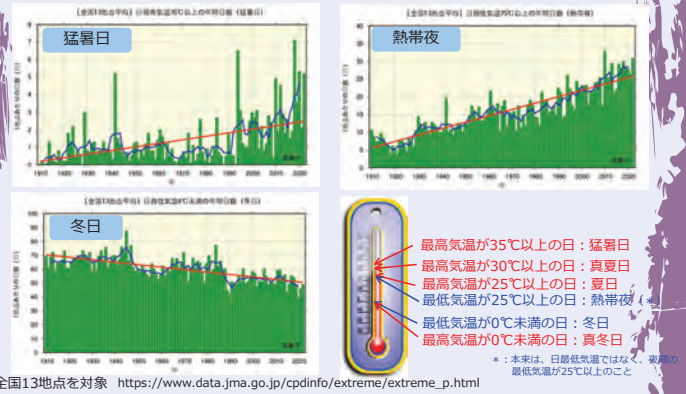
令和5年12月14日
令和5年度長野県自主防災組織リーダー研修会

目次

- 1 温暖化と気象現象の激化
- 2 防災気象情報の拡充
- 3 終わりに当たって

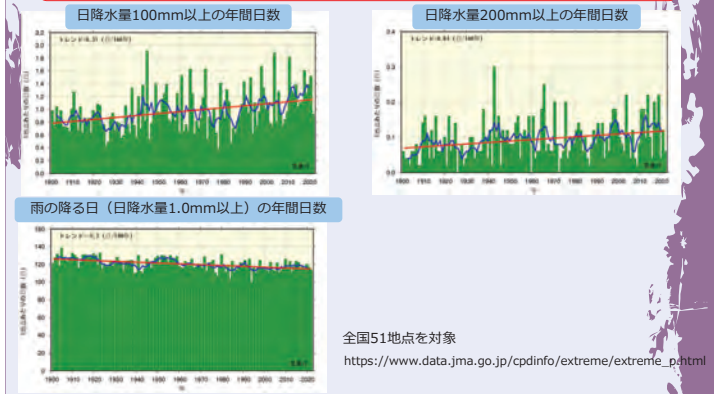
暑い日、寒い日の変化 (1910~2022年)

- 暑い日 (猛暑日や熱帯夜) の年間日数は増加しています (99%有意)。
- 寒い日 (冬日) の年間日数は減少しています (99%有意)。



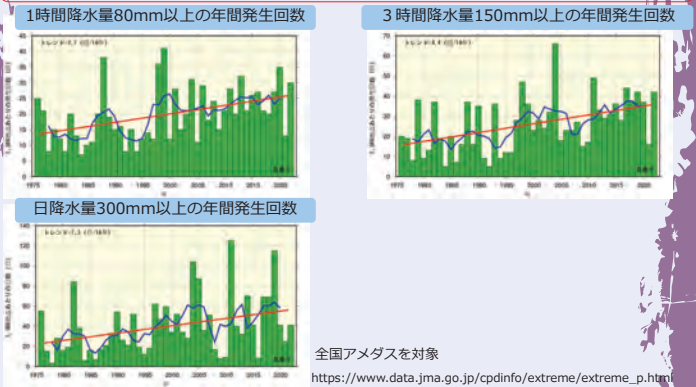
雨の降り方の変化① (1901~2022年)

- 大雨の発生頻度は有意に増加しており、より強度の強い雨ほど増加率が大きくなっています (99%有意)。
- 降水日数は減少しています (99%有意)。



雨の降り方の変化② (1976~2022年)

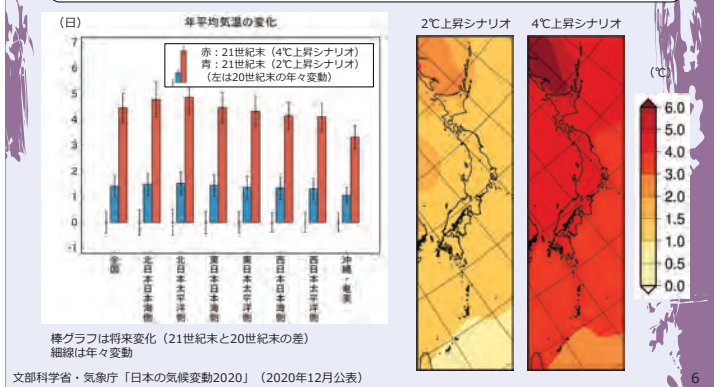
- 大雨の発生頻度は有意に増加しており、より強度の強い雨ほど増加率が大きくなっています。
- 1980年頃と比較しておおむね2倍程度 (※) に頻度が増加しています。(※1時間降水量80mm以上、3時間降水量150mm以上、日降水量300mm以上など強度の強い雨)



年平均気温の変化 (21世紀末→20世紀末)

20世紀末: 1980~1999年
21世紀末: 2076~2095年

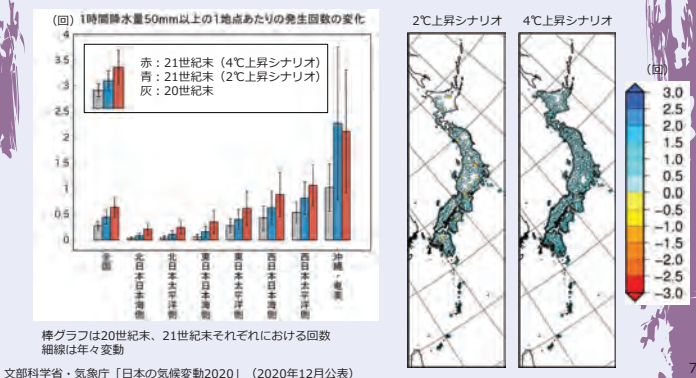
いずれのシナリオにおいても、21世紀末の日本の平均気温は上昇すると予測される。



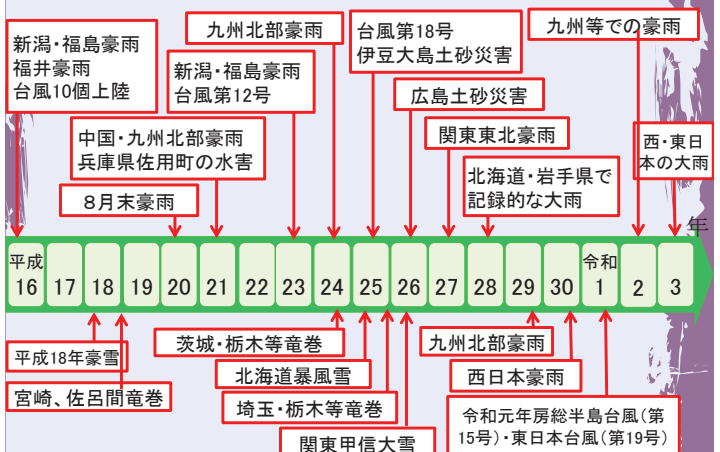
短時間強雨の変化 (21世紀末→20世紀末)

20世紀末: 1980~1999年
21世紀末: 2076~2095年

1時間降水量が50 mm以上となるような短時間強雨の発生回数は、いずれのシナリオにおいても全国的に増加すると予測される。

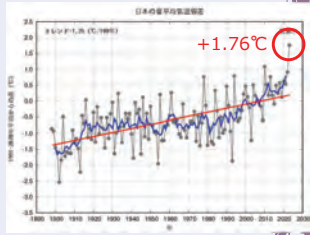
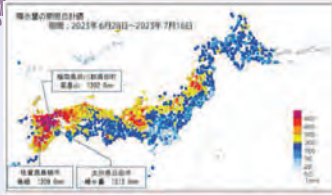


近年相次ぐ気象災害



令和5年(2023年)の大雨と記録的な猛暑

- 6月初めは梅雨前線が本州付近に停滞し、東・西日本の太平洋側で線状降水帯が相次いで発生し、167地点で24時間降水量が6月としての1位を更新する大雨となった。6月末以降は、活発な前線の活動の影響で西日本を中心に各地で線状降水帯が発生し、西日本から北日本にかけての広い範囲で大雨となった。
- 日本の夏(6~8月)の平均気温偏差は +1.76℃ となり、1898年の統計開始以降で最も高かった2010年(+1.08℃)を大きく上回る記録となった。



15地点*の観測値による日本の平均気温偏差。
青線：偏差の5年移動平均値、赤線：長期変化傾向。
*網走、根室、青森、山形、石巻、秋田、盛岡、新潟、富山、福井、岐阜、愛知、三重、滋賀、京都、奈良、和歌山、徳島、高松、香川、岡山、広島、山口、福岡、熊本、大分、鹿児島、沖縄

近年の災害の特徴 その1 平成30年7月豪雨を例として

- ◆ 多くの被害は、災害リスクが高いと公表していた地域で発生した
 - 岡山県倉敷市真備地区の浸水範囲は、ハザードマップで示されている浸水想定区域と概ね一致しており、犠牲者のほとんどが非流出家屋の屋内で被災した可能性がある。
 - また、土砂災害による死者のうち、約9割が土砂災害警戒区域内等で被災した。

中央防災会議防災対策実行会議平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ
平成30年7月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの避難のあり方について(報告)より

近年の災害の特徴 その2 平成30年7月豪雨を例として

- ◆ 居住地の災害リスクをあまり認識していない(正常化の偏見?)
 - 洪水の可能性がある低地居住者の7割が居住地の洪水危険性を楽観視している。
- ◆ 在宅の高齢者の被災が多かった
 - 愛媛県、岡山県、広島県の死者のうち、60代以上の割合が約7割。岡山県倉敷市真備地区では、死者のうち、70代以上の割合が約8割。

中央防災会議防災対策実行会議平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ
平成30年7月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの避難のあり方について(報告)より

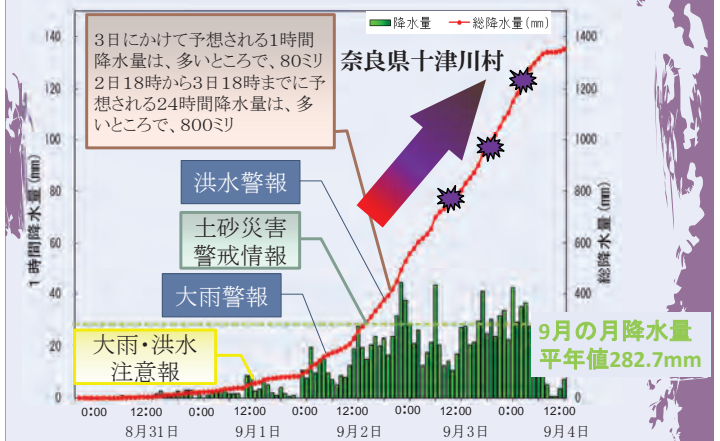
近年の災害の特徴 その3 平成30年7月豪雨を例として

- ◆ 在宅の高齢者の被災が多かった
 - 岡山県倉敷市真備地区では、破堤氾濫等の洪水による被災と推定される死者51人のうち、40人以上が非流失家屋の屋内で被災し、また、多くの方が1階で被災した可能性もあり、垂直避難が難しかった高齢者がいたことも考えられる。
 - 要配慮者利用施設における死者は確認されておらず在宅の高齢者が多く被災した。

中央防災会議防災対策実行会議平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ
平成30年7月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの避難のあり方について(報告)より

2. 防災気象情報の拡充

平成23年台風第12号接近時の防災気象情報



3日にかけて予想される1時間降水量は、多いところで、80ミリ
2日18時から3日18時までに予想される24時間降水量は、多いところで、800ミリ

奈良県十津川村

洪水警報
土砂災害警戒情報
大雨警報

大雨・洪水注意報

9月の月降水量
平年値282.7mm

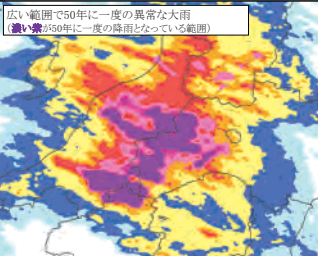
特別警報の対象となる現象

数十年に一度の大雨

数十年に一度の強度の台風

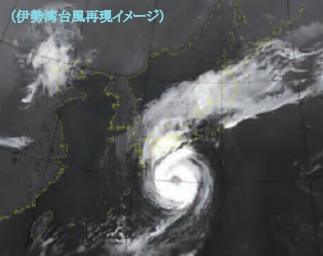
平成23年7月新潟・福島豪雨

(死者・行方不明6人、全半壊1,071棟、床上・床下浸水9,025棟)



昭和34年伊勢湾台風

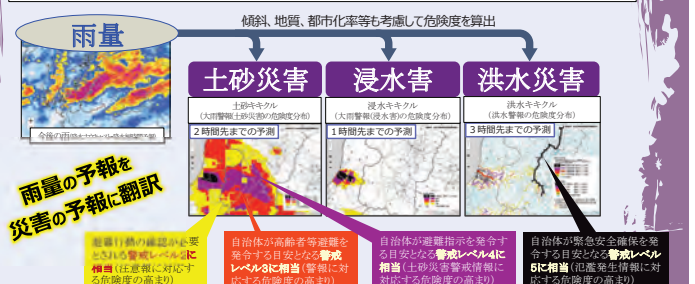
(死者・行方不明5000人以上、全半壊15万棟以上)



「キキクル」～災害発生の危険度分布～



- 雨量データから、災害発生の危険度を表す指標(指数)を開発。
- 過去約30年分の災害データを用いて危険度の高まりに応じた基準を段階的に設定し、雨量予測データから算出した危険度を地図上に色分けして表示(黄→赤→紫→黒)。
- 注意報、警報、土砂災害警戒情報、指定河川洪水予報に対応する危険度がと目で分かる。
- 「黒」の領域では、大雨による災害が既に発生している可能性が高い状況。
- 「黒」を待つことなく、「紫」が出現した段階で速やかに安全な場所に避難することが極めて重要。



雨量の予報を
災害の予報に翻訳

雨量の予報を災害の予報に翻訳
 雨量の予報を災害の予報に翻訳
 雨量の予報を災害の予報に翻訳
 雨量の予報を災害の予報に翻訳

<流域雨量指数>
気象庁ホームページにおける洪水キキクル（洪水警報の危険度分布）の表示イメージ

3時間先までの流域雨量指数の予測値が洪水警報の基礎値に到達しているかどうかで危険度を5段階に色分けて、概ね1km網で表示。

拡大すると、河川径流表示。

指定河川洪水予報の発表状況も重ねて表示。

雨量データから災害発生予測を地図表示した「危険度分布」が有効

期間降水量分布図 (6月28日0時～7月8日4時)

雨量が多い場所でも必ずしも災害が発生しているわけではない。(破線で囲んだ地域)

土砂災害による人的被害・人家被害(崖崩れ・土石流等)が発生した市町村(濃い紫色) (H30.8.7内閣府とりまとめ資料より)

危険度分布の「濃い紫」の場所で災害が発生している。

土砂災害の危険度分布「濃い紫」出現 (平成30年6月28日～7月8日)

警戒レベルと防災気象情報

■ 警戒レベルとは、5段階に整理した「住民が取るべき行動」と「行動を促す情報」とを関連付けるもの。
■ 警戒レベル相当情報とは、様々な防災気象情報のうち、避難情報等の発令基準に活用する情報について、警戒レベルとの関連を明確化して伝えることにより、住民の主体的な行動を促すためのもの。

警戒レベル	状況	住民が取るべき行動	行動を促す情報(避難情報等)	住民が自ら行動をとる際の判断に参考となる防災気象情報
5	異常な大雨	命の危険を感じたら安全確保	緊急警報(大雨・土砂災害)	洪水に関する情報、土砂災害に関する情報
4	異常な大雨	命の危険を感じたら安全確保	緊急警報(大雨・土砂災害)	洪水に関する情報、土砂災害に関する情報
3	異常な大雨	命の危険を感じたら安全確保	緊急警報(大雨・土砂災害)	洪水に関する情報、土砂災害に関する情報
2	異常な大雨	命の危険を感じたら安全確保	緊急警報(大雨・土砂災害)	洪水に関する情報、土砂災害に関する情報
1	異常な大雨	命の危険を感じたら安全確保	緊急警報(大雨・土砂災害)	洪水に関する情報、土砂災害に関する情報

線状降水帯による豪雨への取組み

- 線状降水帯とは
- 顕著な大雨に関する気象情報
- 令和5年の実績
～線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ～

線状降水帯による大雨により甚大な被害が発生した事例

近年、線状降水帯による大雨によって、たびたび甚大な被害が発生している。

線状降水帯と氾濫被害の例(令和2年7月豪雨)

線状降水帯の代表的な発生メカニズムの模式図

線状降水帯による大雨によって甚大な被害がもたらされた事例

事例	線状降水帯発生した地域	死亡	行方不明	住家全半壊	住家浸水
平成26年8月豪雨	広島県	77名	396棟	4183棟	
平成27年9月関東・東北豪雨	栃木県	3名	989棟	5039棟	
平成29年7月九州北部豪雨	福岡県・大分県	40名	1432棟	1667棟	
平成30年7月豪雨	広島県	133名	4771棟	8999棟	
令和2年7月豪雨	福岡県	4名	249棟	3390棟	
	熊本県	67名	4582棟	890棟	
	福岡県	2名	1006棟	2601棟	

※ 被害の情報は、総務省消防庁の災害情報一覧より。

顕著な大雨に関する気象情報の発表状況 ～令和3年8月13日～

- 広島県北部及び南部では線状降水帯による非常に激しい雨が降り続き、8月13日09時19分に「顕著な大雨に関する気象情報」を発表。
- 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準を09時10分から09時30分、09時50分に超過。

○今後の雨(3時間降水量)

09時10分までの3時間降水量

3時間降水量 2021年8月13日09時10分まで

○顕著な大雨に関する情報

顕著な大雨に関する広島県気象情報 第1号

2021年08月13日09時19分 広島電力気象台発表

広島県南部、北部では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生危険度が急激に高まっています。

「顕著な大雨に関する気象情報」を最大で30分程度前倒して発表します

情報の改善

令和3(2021年) 線状降水帯の発生をお知らせする情報(令和3年6月提供開始)

令和4(2022年)～ 広域で半日前から予測(令和4年6月提供開始)

令和5(2023年)～ 最大30分程度前倒して発表(令和5年5月25日提供開始)

令和6(2024年)～ 次世代型気象衛星 市町村単位で半日前から予測

令和8(2026年)～ 2～3時間前を目標に発表

「迫りくる危険から直ちに避難」…段階的に予測時間を延ばしていく

これまでは発表基準を状況で満たした時に発表していた「顕著な大雨に関する気象情報」について、**本年5月からは、予測技術を活用し、最大で30分程度前倒しすることにより、線状降水帯による大雨の危機感をより早くお伝えすることができている。**

令和5年の実績～線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけ～ (令和5年9月29日時点)

- 気象庁では、令和4年6月より、線状降水帯による大雨の可能性が高いことが予想された場合、半日程度前から「線状降水帯」というキーワードを使ってその旨を呼びかけている。
- 線状降水帯は予測が難しい現象であることから、現状では、「○○地方」といった広域での呼びかけを行っている。
- 線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけを実施したとき、実際に大雨となる可能性が高いことから、この呼びかけが行われたときには、大雨災害への心構えを一段高めていただくことが重要である。

運用開始前の想定(令和元年～3年のデータから検証)	令和5年(9月29日時点)
線状降水帯発生時の呼びかけ「あり」のうち見逃し	22回中9回
線状降水帯発生時の呼びかけ「なし」	23回中14回

●線状降水帯発生時の呼びかけを行った22回中、実際に線状降水帯が発生したのは9回であるが、それ以外にも、3時間降水量が150mm以上となった事例が3回あることから、この呼びかけが行われたときには、大雨災害への心構えを一段高めていただくことが重要である。

●線状降水帯発生時の呼びかけを行った22回中、実際に線状降水帯が発生したのは9回であるが、それ以外にも、3時間降水量が150mm以上となった事例が3回あることから、この呼びかけが行われたときには、大雨災害への心構えを一段高めていただくことが重要である。

線状降水帯の発生に繋がらなくても大雨(3時間降水量が150mm以上)となった事例

線状降水帯の発生に繋がらなくても大雨(3時間降水量が150mm以上)となった事例

大雨による災害の留意事項①

大雨が降ると…

一瞬にして多くの人命や財産を奪ってしまう
土砂災害が発生!

崖崩れや土石流の発生を確認してから避難することはできない。



広島市の土砂災害による被害の様子
(平成26年8月20日、気象庁撮影)
平成26年8月豪雨では、広島県広島市で土石流が発生し、人的被害をもたらした。

中小河川は水位が急激に上昇!

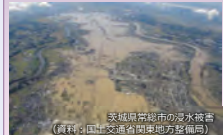
中小河川は、大雨が降ると短時間のうちに急激な水位上昇が起こりやすい。



福岡県朝倉市を流れる北川の様子
(出典:国土地理院ホームページ)
平成29年7月九州北部豪雨では、福岡県朝倉市の赤川、北川等で水位が短時間で上昇して氾濫が発生し、人的被害をもたらした。

大河川は広範囲・長時間浸水!

大河川で水が堤防を越えたり堤防が決壊したりすると、広範囲が長時間浸水するなど大きな被害となる。



平成27年9月関東・東北豪雨では、鬼怒川の氾濫で茨城県常陸市の約3分の1の面積が浸水し、浸水が数日続いたため10日を要した。
(資料:国土交通省関東地方整備局)

ハザードマップを参考に、
キキクルや指定河川洪水予報を活用し、
安全に避難できる早い段階で避難開始を判断することが重要!



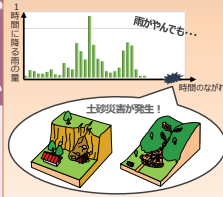
3. 終わりに当たって

大雨による災害の留意事項②

大雨がやんでも…

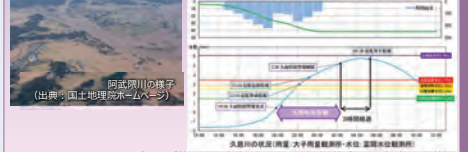
土砂災害の危険が継続!

雨が弱まったりやんだりしても、それまでに降った大雨により地盤が緩んだ状態が続き、土砂災害が発生することがある。



油断禁物! 大河川は時間差で増水

大河川は上流の雨により下流で遅れて増水する。そのため、大雨が止んだ後であっても、水位が上昇し氾濫することがある。



(出典:「第1回気候変動を踏まえた水災害対策検討小委員会」資料(加筆))
令和元年東日本台風では、吉田川、阿武隈川、石田川、蛇形川、都賀川、越辺川、久慈川、千曲川の7河川で大雨特別警報発令後に氾濫発生情報を発表している。

避難先から家に帰る前に
自治体の避難情報や気象情報を確認することが大切!
危険な状況ではなくなったことを確認してから家に帰りましょう。



国民の皆さんへ ~大事な命が失われる前に~

- ◆ 自然災害は、決して他人ごとではありません。「あなた」や「あなたの家族」の命に関わる問題です。
- ◆ 激化した気象現象は今後更に悪化するでしょう。
- ◆ 行政が一人ひとりの状況に応じた避難情報を出すことは不可能です。自然の脅威が間近に迫っているとき、行政が一人ひとりを助けに行くことはできません。
- ◆ 行政は万能ではありません。皆さんの命を行政に委ねないでください。
- ◆ 避難するかは「あなた」が判断してください。皆さんの命は皆さん自身で守ってください。
- ◆ まだ大丈夫だろうと思って亡くなった方がいかもしれません。河川の氾濫や土砂災害が発生してからではもう手遅れです。「今、逃げなければ、自分や大事な人の命が失われる」との意識を忘れないでください。
- ◆ 命を失わないために、災害に関心を持ってください。
- ◆ あなたの家は洪水や土砂災害等の危険性は全くないですか?
- ◆ 危険が迫ってきたとき、どんな情報で、どこへ、どうやって逃げますか?
- ◆ 「あなた」一人ではありません。避難の呼びかけ、一人では避難が難しい方の援助、地域の皆さんで助け合いましょう。行政も、全力で、皆さんや地域をサポートします。

中央防災会議防災対策実行会議平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関するワーキンググループ
平成30年7月豪雨を踏まえた水害・土砂災害からの避難のあり方について(報告)より

激化する気象災害から身を守るために

- ◆ 安易な垂直避難の戒め
- ◆ コミュニティ内の助け合いの重要性

災害先進国日本?

- ◆ 教育レベルが高いのに、防災リテラシーが低い?
(ある近隣国の専門家からは、高い教育レベル、高い予測技術、豊富な災害経験、高い経済力がある日本で、予測された自然災害により多くの犠牲者が出るのが不思議に感じられるとのこと)
- ◆ 予測されている自然現象と自分がいる場所の状況等から、迫り来る災害の危険性は何か(洪水、浸水、土砂災害、暴風等)を正しく理解して、避難所への移動や垂直避難等の要否を客観的に判断し、正しく行動できるようになってほしい

最後に、… 正常性バイアスの罠

- ▶ 自分は大丈夫と思う(思いたい)
- ◆ → 避難しなければならないという都合の悪い情報は(無意識に?)無視して、避難しなくても良いという都合の良い情報をつなぎ合わせて判断しがち
- 鬼怒川決壊の事例
(12時間後に浸水するという専門家の警告があったにもかかわらず逃げ遅れた)
- ◆ 科学的根拠がない判断に命をかけているという自覚がない!

ご清聴ありがとうございました

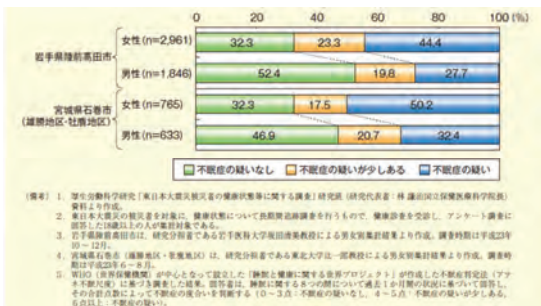


防災分野における 男女共同参画の視点

(内閣府男女共同参画局作成『災害対応力を強化する女性の視点』実践的学習プログラム』準拠)

東日本大震災 睡眠障害(男女別)

睡眠障害が強く疑われる者は、
陸前高田市では、**女性44.4%** **男性27.7%**
石巻市では、**女性50.2%** **男性32.4%**



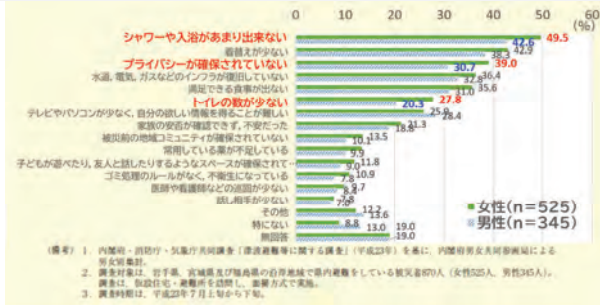
睡眠に関する状態(陸前高田市、石巻市)(男女別)

出典:『平成24年版男女共同参画白書』内閣府

3

東日本大震災直後からの避難所での生活

避難所生活で女性たちは、「シャワーや入浴があまり出来ない」「プライバシーが確保されていない」「トイレの数が少ない」といったことに困っていた。しかも、避難所の**管理責任者の多くが男性**で、避難所の運営に**女性の声が届かない**現実があった。



災害直後からの避難所での生活について困っていること(男女別、複数回答)

出典:『平成24年版男女共同参画白書』内閣府

5

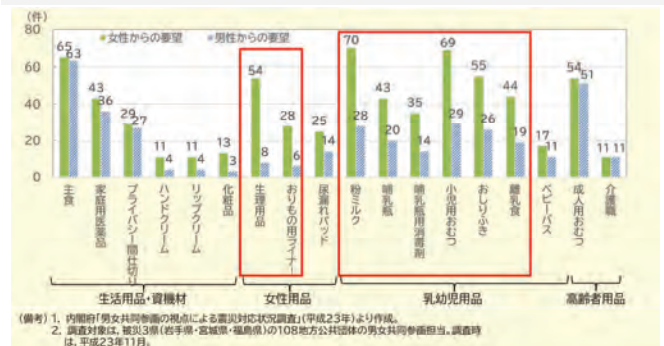
なぜ、災害時に 女性の困難・負担が増大するのか？

あなたは
女性と男性で
災害から受ける影響に違いがあると
知っていますか？

2

災害時に女性と男性で異なる支援ニーズ

東日本大震災時、**備蓄や支援物資が、女性や子育て家庭からの要望**(女性用品や粉ミルク、小児用おむつ、おしりふき、離乳食等の乳幼児用品)に**十分対応できていなかった**。



備蓄や支援物資に対する要望 (男女別、複数回答)

出典:『平成24年版男女共同参画白書』内閣府

4

女性・子どもに対する暴力

- DV
 - 震災で**新たにDVが始まった**、震災前から夫の暴力を受けていた、もともとあった**暴力が悪化した**など
- 性暴力
 - 男性が隣に寝に来る、からだを触る、授乳の**注視、のぞき、強制性交等**も起きている。
 - 避難所のほか、**仮設住宅**でも起きている。
 - 権限のある支援者からの「**対価型**」暴力や、被災者から**支援者への性的嫌がらせ**も発生している。
- 子どもに対する暴力
 - 避難者から**怒鳴られたり叩かれたりする**ケースや、**性的被害**も起きている。

震災後夫のイライラがひどくなり、どなられたり、無視されたり、モノを投げつけられたりするようになった。(30代女性)

DVで離婚調停中の夫が避難所に探しに来て、気持ちが落ち着かなかった。

避難所で、夜になると男の人が毛布の中に入ってくる...周りの女性も「若いから仕方ないね」と見て見ぬふりをして助けてくれない(20代女性)

出典:『東日本大震災「災害・復興時における女性と子どもへの暴力」に関する調査報告書』東日本大震災女性支援ネットワーク 2015年1月改定ウェブ版「関取り数:40人の女性たちが語る東日本大震災」イコールネット仙台

6

性別を理由とした役割分担意識に関連した問題



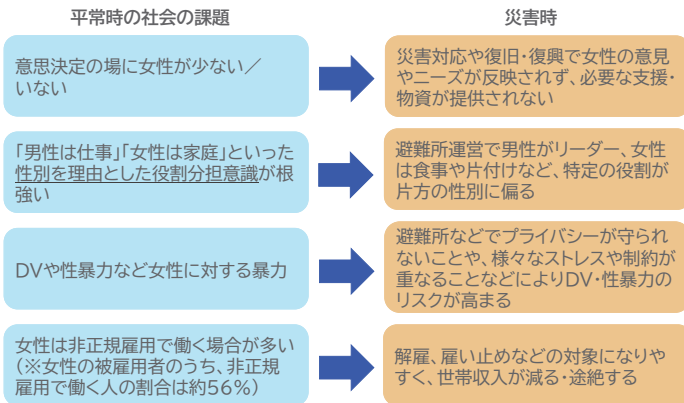
ただし、上記はあくまで男女別の傾向であり、こうした傾向を参考としながら、全ての人へ世帯の支援を考える必要がある

例: 共働き家庭の保育問題、男性の介護者の負担、責任ある立場に就く女性の困難、家族のケアのため職場復帰が遅れることでの解雇・降格 など

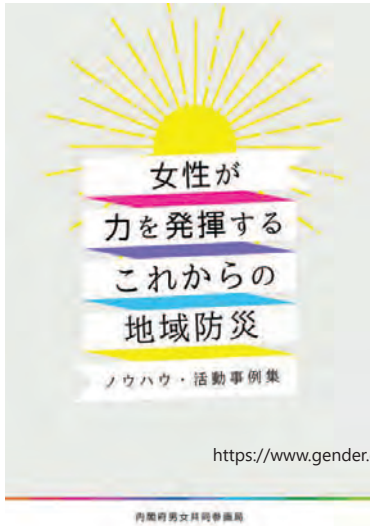
出典:減災と男女共同参画 研修推進センター(GDRR)資料 一部改変 GDRR

8

災害時には平常時における社会の課題が顕在化

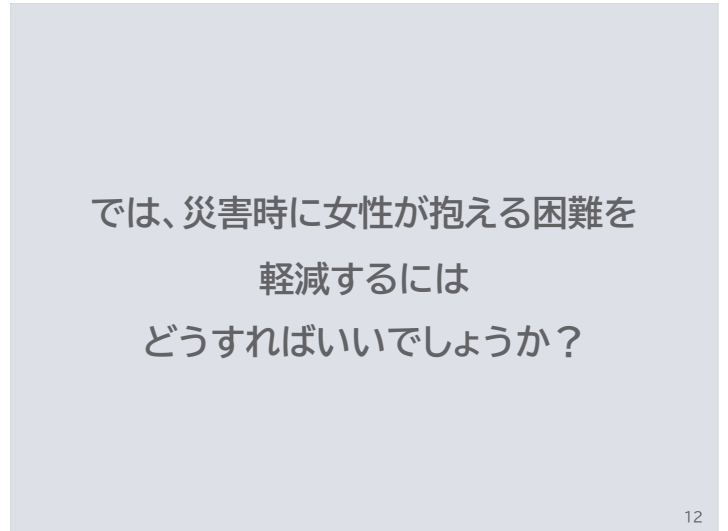


出典：「労働力調査(基本集計) 2019年度(令和元年度)」総務省

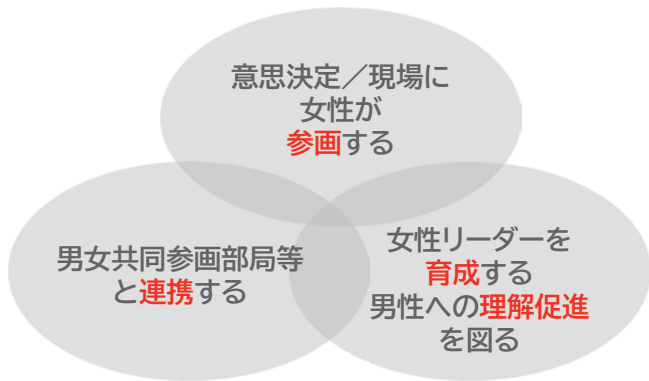


<https://www.gender.go.jp/policy/saigai/knowhow/pdf/1.pdf>

内閣府男女共同参画局



あらゆる防災・復興施策に男女共同参画の視点を入れるための取組



男女共同参画の視点に立った取組とは

(2) 男女共同参画部局等と連携する

●自治体内部の連携

- 地域防災計画や避難所運営マニュアル等に男女共同参画部局等の役割を位置づける
- 平常時から男女共同参画部局と防災・危機管理担当部局、福祉部局、各種専門家等が連携体制を構築する



避難所で聞き取りを行う市の職員(保健師) 【岡山県倉敷市】

●民間との連携

- 女性支援に関わる市民団体や男女共同参画推進員等と連携を構築する

男女共同参画の視点に立った取組とは

(1) 意思決定／現場に女性が参画する

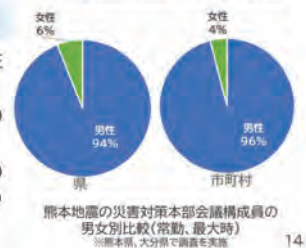
●防災・復興の意志決定への参画

- 地方防災会議に占める女性委員の割合を3割以上にする
- 災害対策本部・復興対策本部に女性を配置する



●防災の現場への参画

- 防災・危機管理担当部局の職員に女性を配置する
- 避難所の管理責任者に女性と男性の両方を配置する
- 自主防災組織、消防団への女性の参画を拡大するとともに、活動を続けられる工夫をする



男女共同参画の視点に立った取組とは

(3) 女性リーダーを育成する・男性への理解促進を図る

●女性リーダーの育成

- 自主防災組織、女性消防団等の地域に根ざした組織・団体の長となる女性防災リーダーの育成を行う
- 女性による自主防災組織の形成を支援する



●男性への理解促進

- 自治体職員や自治会長などの男性に対し、女性の視点からの災害対応に関する研修や啓発を行う
- 自主防災組織等において女性と男性が協働する



災害時のトイレ作り体験の説明をするいばらき女子防災部員 【大阪府茨木市】

平常時にできないことは、災害時にはなおさらできない

まずは、行動を起こす

- 女性が参画するために
- 男女共同参画部局等と連携するために
- 女性リーダーの育成・男性への理解促進を図るために

“今”取り組むべきことを考える

行動を起こすことでしか現状は変わりません
これは、全ての部局・全ての施策に関わります

気づいた“今”から行動を起こしましょう！

17

内閣府男女共同参画局「災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～(令和2年5月)」

<https://www.gender.go.jp/policy/saigai/fukkou/guideline.html>



<構成>

第1部 基本的な考え方

〔7つの基本方針〕

- ①平常時からの男女共同参画の推進が防災・復興の基盤となる
- ②女性は防災・復興の「主体的な担い手」である
- ③災害から受ける影響やニーズの男女の違いに配慮する
- ④男女の人権を尊重して安全・安心を確保する
- ⑤女性の視点を入れて必要な民間との連携・協働体制を構築する
- ⑥男女共同参画担当部局・男女共同参画センターの役割を位置付ける
- ⑦要配慮者への対応においても女性のニーズに配慮する

第2部 段階ごとに取り組むべき事項

第3部 便利帳

18

ガイドライン「避難所チェックシート」の活用

ガイド
第3部

第3部の「便利帳」には、平常時・災害時に活用できる情報が掲載されています

「避難所チェックシート」を使って、運営管理や避難者へのヒアリングを実施し、生活改善を促進しましょう！



19

19「避難所の開設・運営」の取組ポイント

取組主体： 都道府県 市町村 男女共同参画センター 市民団体

- 管理責任者に、**女性と男性の両方を配置**する。
- 避難者の自治的な運営組織に、**女性の参画を促す**。
- 「**避難所チェックシート**」を活用し、巡回指導を行う。
- 避難所の生活ルール作りを行う際には**女性の意見を反映**する。
- リーダー、食事作りや片付けなど、特定の活動が特定の性別に偏るなど、**役割を固定化しないよう**配慮する。
- 避難者名簿に個人情報の開示・非開示についての本人確認の欄を設け、**個人情報の管理を徹底**する。

ガイド
P.34

20

20「避難所の環境整備」の取組ポイント

ガイド
P.35

取組主体： 都道府県 市町村 男女共同参画センター 市民団体

- プライバシーの十分に確保された**間仕切り**により、**世帯ごとのエリア**を設ける。
- トイレ・物干し場・更衣室・休養スペース・入浴設備は、**男女別に**設ける。**授乳室**を設ける。**昼夜問わず安全に安心して**利用できるよう配慮する。
- 女性用品の配布場所**を設ける。
- 女性用トイレの数**は、男性用よりも**多く**する。多目的トイレも設置する。
- 運営体制への女性の参画**を進める。

21

26「避難所の生活環境の改善」の取組ポイント

ガイド
P.43

取組主体： 都道府県 市町村 男女共同参画センター 市民団体

- 避難所チェックシート**を活用し、女性と男性のニーズの違いにきめ細かく対応できているか、**継続的に、確認**する。
- 女性職員や女性の応援職員、男女共同参画担当部局や男女共同参画センターによる**巡回指導**を行う。
- 男女共同参画担当部局や男女共同参画センターは、**女性団体等と連携**を図りながら、**様々な女性の不安や悩みの相談対応**を行う。

22

18「女性に対する暴力の防止・安全確保」の取組ポイント

ガイド
P.32

取組主体： 都道府県 市町村 男女共同参画センター 市民団体

- 性暴力・DV防止**に関するポスター等を掲示する。
- トイレ・更衣室・入浴設備を**適切な場所**に設置し、照明や防犯ブザーで**安全を確保**する。
- 避難所の巡回警備は**男女ペア**で行う。
- 女性用トイレや女性用更衣室には**女性が巡回**する。
- 女性相談員**や**女性専用相談窓口**を設置する。

23 24

平常時からやっていないことは
災害時にはできません
平常時の備えに男女共同参画の
視点を
取り入れることが不可欠です

24

<まず始めたい「平常時の取組」チェックリスト>

- 防災・危機管理担当部局には、女性職員が十分いますか？
- 庁内職員に対して、ガイドラインを踏まえた防災研修・勉強会等を実施していますか？
- 防災研修・訓練は、防災・危機管理担当部局と男女共同参画部局・男女共同参画センターとが連携して実施していますか？
- 地方防災会議の女性委員の割合は3割以上を達成していますか？
- 地域防災計画に、男女共同参画担当部局やセンターの役割を位置づけていますか？
- 備蓄物資の準備に「備蓄チェックシート」を活用していますか？女性職員は参加していますか？
- 物資を供給するために協定締結や住民備蓄に取り組んでいますか？
- 自主防災組織における女性の参画を進めていますか？
- 自治会長などの地域の有力者や各組織の長である男性に対して、女性の視点に立った防災について理解の促進を図っていますか？
- 女性消防団、婦人防火クラブ等の地域に根ざした組織や団体の長となる女性リーダーの育成を行っていますか？
- 女性リーダー同士の連携や情報共有の場を提供していますか？

25

男女共同参画の視点に立った取組を進めると

- 意思決定の場に女性が参画し、防災対策に女性の視点が入ることで、女性と男性の異なるニーズや課題が的確に把握される
- 高齢者、障害者、乳幼児などの介護・介助をするケア者(多くの場合女性)のニーズを踏まえた支援ができる

女性と男性で異なる被害の影響が軽減される
要配慮者の支援が充実する
→ それにより、**被害全体が縮小する**

- 男女共同参画部局・男女共同参画センターと連携し、防災・復興のあらゆる施策に女性の視点が組み込まれる
- 女性の防災人材の育成により、地域で女性の防災リーダーが増える
- 女性の視点からの災害対応について男性の理解が深まる

女性と男性がともに防災・復興に参画し、協力する
→ それにより、**災害に強い社会が作られる**

26

ご清聴、
ありがとうございました。

防災人材育成モデル地区形成事業の取組状況について

長野県危機管理防災課

1 事業概要

信州大学と連携し、県内2つのモデル地区において、地域の中核となる防災人材を育成することで地域の継続的な防災体制の構築を目指す

2 取組状況

(1) モデル地区の進捗状況

地区名	長野市松代地区	上田市真田町長地区
主体となる団体	松代復興応援実行委員会 (住民自治協議会関係団体)	真田の郷まちづくり推進会議 (住民自治組織)
取組内容 ()は 目指す成果)	避難所の初動対策 (避難所開設初動マニュアル作成)	住民の避難対策 (避難タイムラインの作成)
これまでの取組	<p>避難所となる松代小学校での初動対応の検討、避難所開設訓練を実施 【全7回実施 各回約40名参加】</p>   <p>R5. 10. 21 第1回避難所開設訓練 (松代地区)</p>	<p>地区の危険箇所・避難ルートを確認し、地区の避難タイムラインを検討 【全4回実施 各回約30名参加】</p>   <p>R5. 10. 22 フィールドワークによる危険箇所の確認と全体共有 (真田地区)</p>

(2) 「災害アーカイブ展 千曲川流域地区交流会」

ア 日時

令和5年10月14日(土)13:30~17:00

イ 場所

長野市役所1階 市民交流スペース

ウ 参加者

千曲川流域の8地区(モデル地区を含む)

エ 内容

(ア) 本モデル事業の取組状況及び流域地区の復興状況や防災活動などの報告

(イ) 参加者との意見交換を実施



R5. 10. 14 千曲川流域地区交流会における地区の防災活動の発表

3 今後のスケジュール

令和6年2月まで モデル地区でワークショップ等を随時開催

3月 成果報告会

令和5年度長野県自主防災組織リーダー研修会

アンケート結果 (Zoom)

○回答総数 33 件

1. あなたに該当する項目に○をつけて下さい。 ※複数可

自主防災リーダー	12/33 (36)%
自主防災アドバイザー	4/33 (12)%
県・市町村防災担当者	19/33 (58)%
その他	2/33 (6)%

2. 当てはまる項目に○をつけて下さい。

Q 1. 全体を通じて、研修内容は理解できましたか？

はい	31/33 (94)%
どちらともいえない	2/33 (6)%
いいえ	0/33 (0)%

Q 2. 本研修は、役に立ちましたか？

大変役に立った	22/33 (67)%
やや役に立った	9/33 (27)%
ふつう	2/33 (6)%
あまり役に立たなかった	0/33 (0)%

Q 3. 研修の形式 (web 開催) や、運営方法はいかがでしたか？

満足	26/33 (79)%
どちらともいえない	6/33 (18)%
不満	1/33 (3)%

不満な点があればご記入ください。

- ・ 質問等を受け付けてほしい。
- ・ 講義形式で一方向的なので、双方の意見交換ができればいい
- ・ 研修時間は延長の無いようにお願いしたい

Q 4. 今回の研修をご自身の今後の自主防災活動に活かすことができそうですか？

はい	29/32 (91)%
どちらともいえない	3/32 (9)%
いいえ	0/32 (0)%

Q 5. 今後の自主防災活動において、取り組んでみたいこと（検討していること）を具体的にご記入ください。

- ・ 地区の防災マニュアル作成
- ・ 個別避難計画の作成を進めていき、高齢者等の避難訓練も行っていきたいと感じた。
- ・ 要支援者の把握、要支援者への支援者指定（複数）、避難訓練などに取り組んでいきたい。
- ・ 男女共同参画
- ・ 1 番目の鍵屋さんで、楽しいことが良いと言われ、区民の参加が楽しかったら益々区民参加が出来て、ジャー何のために区に入るかの解決にもつながりそうです。
- ・ 要支援者へのアナウンスや確認をスムーズに行いたい。避難所の開設を実際に経験したことがあるが、コロナ禍で運営について知識が欲しい
- ・ 現状特になし
- ・ 男女共同参画の取組 自主防災組織への女性の参画がどうしても少ないため、研修等で働きかけていきたい。
- ・ 地区内の要介護者の情報入手を整える
- ・ 地域の橋梁関係の育成
- ・ 個別避難計画の作成
- ・ 補助金額の増額 地域を巻き込んだ防災訓練の実施
- ・ 地区の区民に知足防災講習会の開催を検討したい
- ・ 今後も自主防災会との連携強化を図っていく。
- ・ 民生児童委員と連携した訓練の実施（例：避難行動要支援者名簿の運用）

Q 6. 研修全体の満足度はどれくらいですか？あなたの感想にもっとも近いものを選んでください。

満足	17/32 (53)%
やや満足	15/32 (47)%
やや不満	0/32 (0)%
不満	0/32 (0)%

その理由をご記入下さい。

<満足>

- ・ 防災についての理解を深めることができた。
- ・ 社協の実体験に基づく説明は参考になった。
- ・ 過去の災害事例から防災に対する考え方や個別避難計画作成の必要性をあらためて確認することができた。
- ・ 「正常化の偏見」など、いざというときに、事態を過小評価してしまわないためにも、平時における訓練が大事と理解できた。地域の皆が互

いに助け合う・声を掛け合い命を守る人間関係を築いていく。コロナ感染も落ち着いてきたので、新年会、慰労会などでの親睦を深め、地域のコミュニケーションを図っていきたい。

- ・近所づきあい、人間関係が大切なのがよく分かった
- ・いままで知らなかったこともあり、とてもためになった。
- ・時間もちょうどよく、内容も講師の先生方の豊富な経験に基づいた説明で分かりやすかった。

<やや満足>

- ・音声に不備があり（当方の理由）参加者の共有化がうまくいかなかった
- ・リモートでするならもう少し時間を短く内容を絞って欲しい。
- ・ズームへの接続に少し時間が掛かってしまい、もう少し簡単に成らないのかと思いました。
- ・講義の内容が良かったと思います。
- ・今後の行動の参考になったので。

Q7. 次年度以降、本研修会については、以下のとおり基礎講座と実践講座の2部構成とし、受講者が選択して参加できる形態を検討しています。

- 基礎講座…防災に関する基礎知識や県の取組についての研修動画をWeb視聴する。
- 実践講座…本研修会の中でご紹介した「防災人材育成モデル地区形成事業」について、その取組内容を各地域で実践できるよう、信州大学と連携した実地型の研修を行う。参加者は会場（地区）に出向き受講する。R6は避難所開設や避難行動・誘導に係る内容を予定。

次年度以降の研修について、ご意向・ご意見をお聞かせください。

- | | |
|--------------|-------------|
| ①基礎講座のみ参加したい | 4/33 (12)% |
| ②実践講座のみ参加したい | 3/33 (9)% |
| ①②両方参加したい | 24/33 (73)% |
| 別の方法が良い | 2/33 (6)% |

その理由をご記入下さい。

<①基礎講座のみ参加したい>

- ・防災に関する県の取り組みに興味があるため。
- ・時間がとれれば。

<②実践講座のみ参加したい>

- ・実際の避難所での対応の話を聞きたい。
- ・信大と連携した研修会について知りたい。

- ・他地区で実際に行っている内容を学び、自地区にの自主防災に役立てていきたい。

<①②両方参加したい>

- ・自主防災組織に地域の防災活動により注力していただきたいと思う。
- ・防災の最新の知識を深めたい。
- ・いろいろな、講座を聞きたいです。
- ・座学で知識をつけるだけでは不十分で、実際に実地訓練に参加することが重要だと感じます。日程が合えば、参加したいと思います。
- ・まだ、災害時何をどうして良いか分からない点が多い。
- ・自主防災組織向けの研修として、ぜひ地区の皆さんと参加したいと思います。
- ・防災への取組みはハードルが高いと感じているが、②に参加することで、気軽に取組めるため。

<別の方法が良い>

- ・楽しいことと授業は変えないと。

Q 8. その他、ご意見・ご感想等がありましたら、ご記入下さい。

- ・社協の方の発表時間をもっと長くして詳しく最後まで説明してほしいかった。
- ・1 番目の鍵屋さんで、楽しいことが良いと言われ、区民の参加が楽しかったら益々区民参加が出来て、ジャー何のために区に入るかの解決にもつながりそうです。
- ・インフルエンザが流行中なのでリモート方式での研修は有難い、
- ・前以て、質問やこの時の実際の行動はどうかとかを、書いておいて、参考意見を聞けたり出来れば、良いのでは。
- ・企画・運営お疲れ様でした。
- ・男女共同参画の件、女性（特に 40 代以上）の意識改革は必要と思う自分の家族もそうだが、地域活動については男性が参加し、家庭のことは女性が行うという意識がいまだ根強い。私が行ってもわからないし、あなたが行ってよ…。というようなことが多い。

令和5年度長野県自主防災組織リーダー研修会

アンケート結果 (YouTube)

○回答総数 74件

1. あなたに該当する項目に○をつけて下さい。 ※複数可

自主防災リーダー	28/74 (38)%
自主防災アドバイザー	37/74 (50)%
県・市町村防災担当者	4/74 (5)%
その他	5/74 (7)%

2. 当てはまる項目に○をつけて下さい。

Q 1. 全体を通じて、研修内容は理解できましたか？

はい	70/74 (95)%
どちらともいえない	3/74 (4)%
いいえ	1/74 (1)%

Q 2. 本研修は、役に立ちましたか？

大変役に立った	48/74 (65)%
やや役に立った	21/74 (28)%
ふつう	5/74 (7)%
あまり役に立たなかった	0/74 (0)%

Q 3. 研修の形式 (web 開催) や、運営方法はいかがでしたか？

満足	54/74 (73)%
どちらともいえない	16/74 (22)%
不満	4/74 (5)%

不満な点があればご記入ください。

・研修内容の情報を伝えて人たちに人たちに知らせる手段が無く、せめて資料をダウンロード出来ればと思います。

・質問等の対応ができず、今後は東信地区にて参加型の研修会を実施して欲しい

・録画できなかった。今後の参考になることが沢山あり、資料の作成などに活用できると思います。記憶することは大変です。

Q 4. 今回の研修をご自身の今後の自主防災活動に活かすことができそうですか？

はい	64/74 (86)%
どちらともいえない	10/74 (14)%
いいえ	0/74 (0)%

Q 5. 今後の自主防災活動において、取り組んでみたいこと（検討していること）を具体的にご記入ください。

- ・従来の防災訓練や運動会では参加者が少ないことから、「防災運動会」を計画したい。実施例（競技種目）などを紹介してほしい。
- ・災害発生時と平時の独居高齢者の見守り・支援・役割分担など。
- ・避難行動要支援者安否確認で不在時、すでにどこの避難所へ避難しているのかの確認方法
- ・普段の支え合い活動と防災活動を結びつけた活動を推進したい。地域での生活が、健康で楽しい人生になることを明確な目標にしたい。「支え合いシート」を普段の生活レベルで実践できるようにレベルアップする。
- ・建築士会に在籍しており、消防団長として自主防災に従事した経緯から、有事の対策を日頃から行政や士会でも検討しています。例えば、地震災害時における応急危険度判定に従事する判定士の活動内容、連絡網、行政も交えた講習会を企画して、来年の2月の新年講習会で行えるよう建築士会木曾支部事務局に調整してもらっています。
- ・自治会公民館～高齢者と要支援介護者合同による指定避難所迄の避難訓練の実施。
- ・チャンスを待ちながらも、活動に対して諦めずに続けること。
- ・自主防災の必要性が地域住民に定着させることが必要だと思います。
- ・個別避難計画の作成（他1件）
- ・人材、後継者育成、24時間体制の組織向上
- ・正常化への偏見払拭をもっとしていきたいと思います。なんとかなる・自分は大丈夫と言う思い込みが強い。
- ・女性リーダーの育成。研修会のなかの「防災分野における男女共同参画の視点」が大変参考になりました。
- ・長きに亘り消防職員であったことから、講義にもあった「正常化の偏見（正常化バイアス）」については理解しているところですが、一般市民にいかに自覚させるのが課題だと感じます。講義では、要介護・要支援者を助けるのは「動ける人」という言葉が印象的でした。「人」を動かすための良い表現を学んだと感じています。
- ・今まであまり目を向けなかった女性物資問題など、もう少し色々調べながら、お役に立てる事をしてみたいと思います。
- ・地域住民との接し方や、防災シート等を参考にしたいです。
- ・災害時避難するにあたり五人組の声掛けを基本に行い要支援者を取り残すことが無いようにしたい。
- ・見える化を図り集落センターに一時避難場所・町会一時避難場所・指定避難場所の地図と自主防災組織班構成図・警戒レベルによる避難行動・隣組プラカードを作成し掲示してある。来年度は、非常持出品の写真を掲示予定。
- ・防災管理者に女性も含めて対応していきたい。
- ・隣近所の風通しの良い付き合いの広まり
- ・避難所における男女共同参画
- ・昨年7月の初旬に狐島区での河川清掃の際に、開催前日に豪雨に見舞われ河川清

掃の延期通知を電話連絡網を使って行ったところ、連絡先の半数以上に連絡が取れませんでした。非常に危機感を感じ、狐島区全体の連絡網を作製し始めようやく12月下旬に完成しつつあります。又、水害時の一時避難場所を確保するため区内の企業等で二箇所の一時的避難場所確保に防災協定もしくは、覚書書を締結する内容で取り運んでいます。

- ・より実践的な内容の防災訓練を行ってみたい。
- ・AEDを設置致しましたので、操作等々の講習をしたい。
- ・自主防災組織の組織作りの目的と役割を明確にして、人選は急がなくても良いかなと思い相談してみたいと考えています。(組織の硬直化とマンネリ化を防ぐため)
- ・子ども参加型の活動
- ・昨今の報道等で防災に対する個人ごとの行動判断基準は既にできていると思っています。具体的ではありませんが、それに対し日本人のいいところである「他人を思いやる」といったことを観点に、防災活動は地域全体の協力の上に成り立っているということを自然と感じさせるようなイベント等ができればと思っています。
- ・時間が経過すると災害の危険意識が薄れてゆくため、プロジェクター、TV 棟活用しながら、災害発生の悲惨な事実を再認識できる防災訓練としたい。
- ・連絡網のデジタル化
- ・自治会の自主防災組織及び消防団と連携した防災・減災啓発活動
- ・避難場所が本当に現在の公民館・会館で良いのか検討したい(役員会) 区民の意識をどう高めるか検討したい(役員会)
- ・ご近所力如何に横の繋がりが保たれる方策を考えたい
- ・土嚢積み訓練
- ・能登半島地震の避難所開設における電気、水道、その他の利用できない状況等、詳しい現状について時期を見て研修いただきたい
- ・自主防災組織の形骸化が指摘されている。各自治会に組織されている自主防の活性化、特にメンバーが防災に意識を高められる活動をしていきたい。
- ・住民自治組織と連携してワークショップ等により地域のリスクから、平時、災害時の対応を考える会議を進めていきたい。
- ・逃げ遅れゼロプロジェクトの推進 ・小学校区(自治会単位)での防災講習会(話し合い) ・要援護者の避難相談(個別)計画書の作成 ・福祉避難所の見直し ・避難の目安となるものの目印付け。
- ・現在、地区自治会と地区防災の見直しを行っています。
- ・避難訓練、避難所運営訓練は、繰り返し実施しているが、復旧・復興訓練は一度も訓練したことがない。講座で事例や、YouTube を用い特に老人対象に研修をお願いしたいです。
- ・日常から人間関係、近所関係を良好にして誰一人取り残さない魅力ある地域社会を目指していきたい
- ・住んでいる地域に災害がないと、日頃の防災意識が欠如しがち、この点について継続的に普及教育の場を多くするよう取り組んでいきたい、災害があることを喜んではいませんが
- ・自主防災組織は地区はもちろん職場においても組織の立上げ、研修、防災講座の

実施を進めていきたい。

- ・組織や企業を取り巻く近隣社会とのかかわりから、地域での自主防災組織を展開するために必要なことは何か。
- ・備蓄品の整理・更新に取り組んでおり、備蓄場所や備蓄方法、更新の平準化について検討しています。
- ・個別避難計画を各世帯に浸透させ、有事に活用でき安全確保が確実に実行できる組織（ご近所力）を備えたい。そのためにも、子どもから故郷を自分たちで共助する意識（地域共生社会を一緒に作る仲間、信頼の絆）を身近に感じる啓発活動を構築させたい。

Q 6. 研修全体の満足度はどれくらいですか？あなたの感想にもっとも近いものを選んでください。

満足	41/74 (55)%
やや満足	25/74 (34)%
やや不満	7/74 (10)%
不満	1/74 (1)%

その理由をご記入下さい。

<満足>

- ・パワーポイントにての講話、内容がわかりやすく自主防災会組織活動に活かせる研修で満足しました。
- ・実際の行動指針に繋がるような気付きがあった
- ・やすみを取りながらじぶんの流れで参加できて助かりました。くり返見ることができますか。？
- ・実践的な取り組みが充実していた。
- ・理解しやすい内容だった（他3件）
- ・防災への訓練・計画などの不足を感じる研修だった。
- ・講師の皆さまの丁寧な説明が大変内容の理解と意欲に繋がりました。
- ・時々でも、こう言った研修で振り返る事や新しい問題に取り組む事は大切だと思うからです。
- ・避難所での女性目線の意見が参考になった。（他1件）
- ・私たちが暮らす中山間地は、人口減少・急速な高齢化・少子化・担い手不足が問題となっています。今回の受講で改めて、隣近所の良い関係性の確率そして自助・共助の重要性を再認識できました
- ・テレビやマスコミ等からは得られない貴重な情報を知ることができました。
- ・1月1日の能登半島地震後に研修動画を視聴したため、また違った意識で受講できた。（他1件）
- ・地域のこと、実際の事例から、自分達の地域でどのような活動が必要か考える良い機会となった。
- ・跡見学園女子大学 鍵屋一教授の話は、興味深く聞かせていただきました。
- ・人の心理に基づいて、上手に行動を促せる指示方法の一助となった。
- ・共助を意味する近助とはうまく言ったものだと思います。また、訓練などと格

式ばった言い方をせず、ひなんさんぽをすれば、訓練委参加しやすくなると思いました。

・4人の講師の方の講演でしたが、それぞれ違った角度で講演してくださりとでも満足でした（他1件）

・常に新しい情報を知ることができる。また他県の取り組みなど参考になった。

・本年度より防災担当者として業務していますが、まだ研修時間が少なかつたため。

・「災害時にも誰一人取り残さないために～近助で支え合う地域防災～」講師鍵屋一教授、具体的説明と過去の災害データ分析からの説明で、今回初めて防災・減災を自己レベルで再認識できました。

<やや満足>

・突然の通知をいただきましたが年度初めに年間の研修計画を知っていただけるとありがたいと思いました。

・地域の特性を踏まえて、研修内容を具現化するために一苦労しなければならない。

・とても参考になる講習もあったが、温暖化と気象現象の激化などは知っている情報だったため。

・立場に立たされた人達にはよいが、関係者への協力が継続的にできないジレンマがある。役員が任期で交代となってしまう等・・・

・概ね講義内容は知り得ていました。

・やや駆け足的なところがあった。

・WEBのため自分で時間を作ることが出来る

・研修を進める中で詳細説明に具体的内容等が不明点が多かった。突然の連絡や今までの流れがつかめていなかった事も反省しています。

・組織作りとか、役割分担の人選等難しい部分は結局当事者の間で解決しなければいけない問題でそれに至るための知識・方法論として自分達がどれだけの知識を持っているかが大事だと思っています。

・今までの災害状況など、一部ではあるが、集約して見れた。実際に講師の方の理想とするように皆が行動できるかは疑問が残る（10人10色）。言いたい事は解るけど・・・現在では特に

・内容は良いと思いましたが、テレビ視聴等については満足できない

・気象に関して長野県についてももう少しお話を聴きたかった。

・画面だけで学習のため今後の資料として欲しい

・鍵屋一教授が良かったです

・最後に男女共同参画の話が出たが、3つのうちの1つに取り上げたことは良い傾向。しかしまだまだ啓蒙・啓発には至らない。

・自主防災における支援の必要性や避難所において女性が困っていることを学習できたから。

<やや不満>

・長いというのは時間の消費ということだけでなく、集中力、記憶への蓄積などの面で非効率

・他の研修等で同じ講師の同じ内容を聞いたことがあった。

・時間が長い

- ・講師の方には新しい防災のことを話してほしい。防災資機材、ボランティア体制等の提案。
 - ・もっと自治体で行っている具体例を知りたい。
- <不満>
- ・能登半島地震が起きる前に開催されたので仕方無いと思うが、震災に重きを置いた講義、講習を今後お願いしたい。

Q7. 次年度以降、本研修会については、以下のとおり基礎講座と実践講座の2部構成とし、受講者が選択して参加できる形態を検討しています。

- 基礎講座…防災に関する基礎知識や県の取組についての研修動画をWeb視聴する。
- 実践講座…本研修会の中でご紹介した「防災人材育成モデル地区形成事業」について、その取組内容を各地域で実践できるよう、信州大学と連携した実地型の研修を行う。参加者は会場（地区）に出向き受講する。R6は避難所開設や避難行動・誘導に係る内容を予定。

次年度以降の研修について、ご意向・ご意見をお聞かせください。

- | | |
|--------------|-------------|
| ①基礎講座のみ参加したい | 16/74 (22)% |
| ②実践講座のみ参加したい | 6/74 (8)% |
| ①②両方参加したい | 46/74 (62)% |
| 別の方法が良い | 2/74 (3)% |
| 空欄 | 4/74 (5)% |

その理由をご記入下さい。

<①基礎講座のみ参加したい>

- ・自主防災会長役職任期1年、次年度は新たな会長研修者となり担当者が変わるため（他1件）
- ・基礎講座でもわかりやすく解説しているから。
- ・日時によっては、会場に出向く事が出来ない。（他1件）
- ・「基礎」、「実践」というより、研修動画Web視聴であれば、自分の都合に合わせて自由な時間に視聴できるし、適度な休憩を挟めば集中して学習できる。
- ・空いている時に見る事が出来、急に用事（電話）等が出来ても、一時停止出来、必要に応じて繰り返し見れる、現場会場まで行く時間、交通費、が不要で事故も無いと思う
- ・自らのスキルを少しずつ向上させたいから

<②実践講座のみ参加したい>

- ・知りたい情報があるため。
- ・色々な組織で形は少し違えどもよく似た基礎講座があり、内容が重複している。
- ・実際の行動を体感して、適切な指示を出せる体験をしたい。
- ・知識だけでなく、体験することにより役に立ってスキルを身に着けることができると思う

<①②両方参加したい>

- ・実際の現場で具体的な状況を肌で感じたいため。(他1件)
- ・もっと行動できる自主防災組織にしたい。
- ・自身のスキルアップのためと、地域住民を守るために(他1件)
- ・再確認と新しい技術方法等知識向上の為(他1件)
- ・基礎講座の叩き込み・避難行動・誘導の研修が足りていないので受けてたい。
- ・地域の防災意識向上に役立てるため。(他2件)
- ・実践は足りないところに気付ける。机上で考えることは勿論必要であるが、そのためには経験が重要となる。特に訓練での失敗は、次への糧として記憶に残るので、両方受講することが望ましいと考えるため。ただ、年次休暇が限られていることから、参加できるかどうかは不透明。
- ・やはり実践も経験していないといざという時の行動ができない。
- ・実施内容を把握したい為
- ・災害は繰り返し繰り返し学習が必要で、9/1の防災訓練の実施に向け令和6年度の早期開催を希望します。
- ・今後の地球環境を考えると自然災害等がとても気になります。地域の安全安心のため早めに理解しておきたい。
- ・動画視聴や座学だけでは足りないと感じていたから。
- ・今回のようにWEBは、いつでも視聴でき参加できるので良い。現地を見ることは、大切。都合がつくのであれば行きたい。
- ・新しい取り組みは良い。避難所開設は重要だが、成功例は無いと思う。
- ・Youtubeだと質問ができない。
- ・知識としては知っていても、実践となると機会が少ない。また、自治会役員は数年で交代してしまう為、防災に関するノウハウはほとんど引き継がれないように思う。防災士等自主防災リーダーの重要性が増していると感じるから。
- ・やはり基礎を学びそれを実践する、セットでの学習が効果的だと思います(他3件)
- ・震災を含む今後の取り組みに役立てたい。
- ・真田地区長の事業に参加している。松代の避難所運営についても学びたい。
- ・ソフト・ハードの両面で、知識を深めていくことで、地域でのアドバイスに繋げていく
- ・2035年頃予想の南海トラフ巨大地震発生時に備え、基礎も実践講座も学習することは大事
- ・両方参加はしたいが、仕事を1日休みとしないといけない。土日などの日程も作ってほしい。
- ・担当者の人数が少なく、研修等にかかる時間は限られるため、Web視聴はありがたい。これにより短時間となる実地研修であれば参加しやすい。
- ・災害の多様化、被害の拡大等で防災知識の変革や改善改良と共に、対処法の改正に対しモデル地区での知識、地元防災組織に活用したいため。

<別の方法が良い>

- ・住自協における自主防災組織のリーダーは、年齢的にこれから研修を積んでいくには遅すぎると思われます。リーダーを養成するような研修会を望みます。

<空欄>

- ・県内4箇所程度の研修会をお願いしたい。

Q 8. その他、ご意見・ご感想等がありましたら、ご記入下さい。

- ・経験豊富な講師の方に興味深いお話をさせていただきありがとうございました。可能であれば防災リーダーだけでなく youtube で常時一般向けに公開しても良いのではないかと思います。
- ・基礎講座は短時間で回数を増やす。実践講座は必要に応じ設定する。考えてほしいのは主催者側都合で詰め込んで、回数を減らすのに腐心しないこと。
- ・私の活動実態は、前危機管理監、防災課長、主事さんが来宅し視察していただきました。科学的根拠に基づく防災マップ等の作成をしています。俄の地区防災計画では、地域住民を不安に落とし入れる可能性に注意していただきたい。福祉避難所は災害発生と同時に開設出来る地区が何処にあるか教えてください。私は、一般避難所に入り保健師等のチェックを受けてから福祉避難所へ移送させる方法を取っています。スタッフが居ない場所へ直接避難するというのは如何でしょうか？今回観賞した感想を意のまま書きました。防災活動28年が過ぎようとしています。
- ・web 開催研修は有難いので増やしていただければ幸いです。
- ・実践講座の開催日が仕事のスケジュールと合わない場合の研修方法のご検討をお願いいたします。
- ・食事に関しての炊き出しや土砂、瓦礫の搬出場所等も防災マップに記載して、できるだけ近い場所での処理が可能にして頂きたい。
- ・受講者が増え防災の理解者が増えることを期待します
- ・防災全体の年間計画を示してください。